



公益財団法人

日本体育協会



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

[平成28年度総集編]



1 特集

テーマ別運営事例集

このメールマガジンはスポーツ振興くじ (toto) 助成金を受けて配信しています。

スポーツ振興くじ (toto) についてはこちらから

[日本スポーツ振興センター HP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

INDEX

■スポーツ庁の設置と地域スポーツの推進について (第126号：平成28年5月23日発行)	3
■安定的な財源の確保に取り組むクラブ (第127号：平成28年7月20日発行)	
NPO法人 かがみいしスポーツクラブ	10
NPO法人 ゆめフルたけとよスポーツクラブ	14
■地域住民間の交流・親睦を深めるクラブ (第128号：平成28年9月20日発行)	
稲穂ファミリースポーツクラブ	20
高山村総合型スポーツクラブ	25
総合型地域スポーツクラブ DISPORT・キラキラ うたづ	30
■会員や地域住民に向けた広報を行っているクラブ (第129号：平成28年11月21日発行)	
NPO法人 赤べこトータルスポーツ	34
NPO法人 川西スポーツクラブ	38
■クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブ (第130号：平成29年1月20日発行)	
多寄スポーツクラブ	42
おおくすクラブ (東みよし町総合型地域スポーツクラブ)	46
■行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブ (第131号：平成29年3月21日発行)	
チャグチャグスポーツクラブ	51
さけがわ友遊 C'Love	55
スポーツクラブ21長沢	60

平成27年度SC全国ネットワーク総会 スポーツ庁情報提供

スポーツ庁の設置と 地域スポーツの推進について

スポーツ庁の「今後の地域スポーツ推進方策に関する提言」に基づいた総合型クラブに関する施策の方向性等について、スポーツ庁より情報提供がありました。

今回は、その情報提供の内容をご紹介します！

【情報提供 主な内容】

- ➔ 1. スポーツ基本法について
- ➔ 2. スポーツ庁の設置について
- ➔ 3. 総合型地域スポーツクラブに関する施策の方向性



1 スポーツ基本法について

平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」について、基本理念や「スポーツ振興法」からの改正の経緯等をご紹介します。

■ 基本理念

行政だけでなく、スポーツ団体や関係者にも共通する理念として規定。

1. 生涯にわたるスポーツ
2. 青少年のスポーツ
3. 地域スポーツ
4. 心身の健康の保持増進、安全の確保
5. 障害者スポーツ
6. 競技水準の向上
7. 国際的な交流・貢献
8. 公正・適切なスポーツの実施と国民の理解・支援

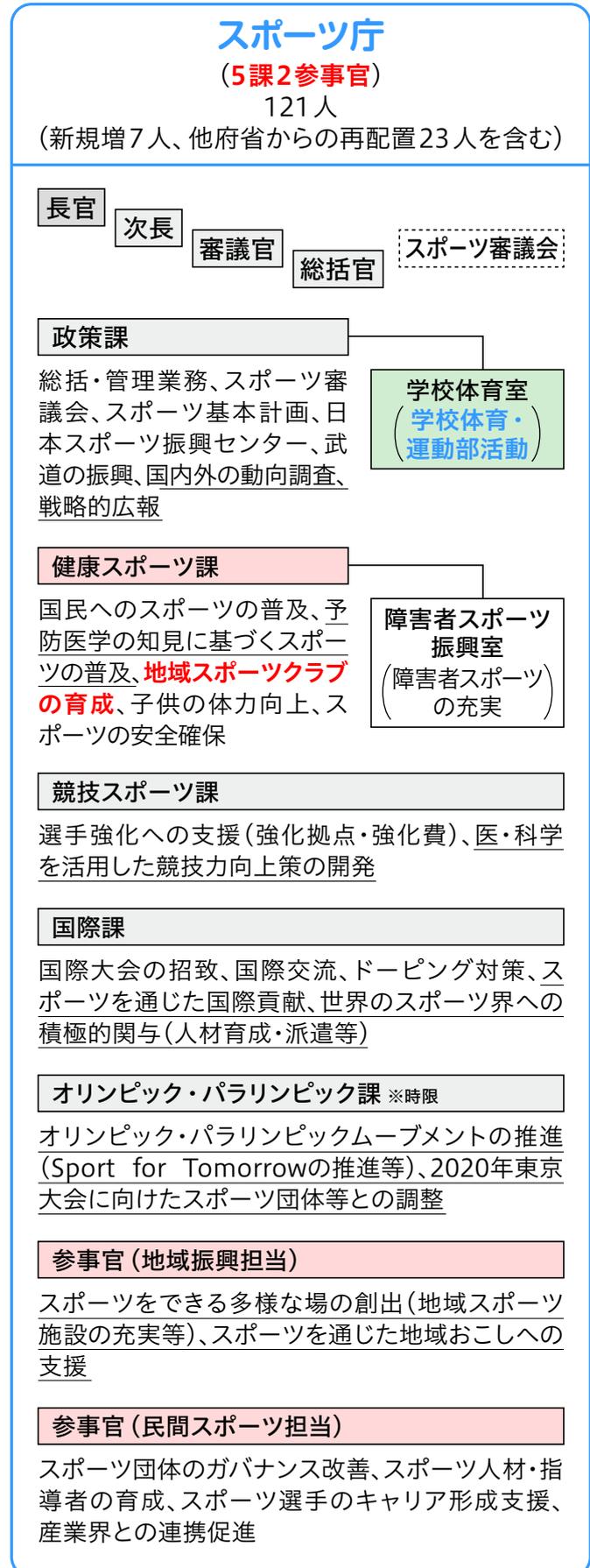
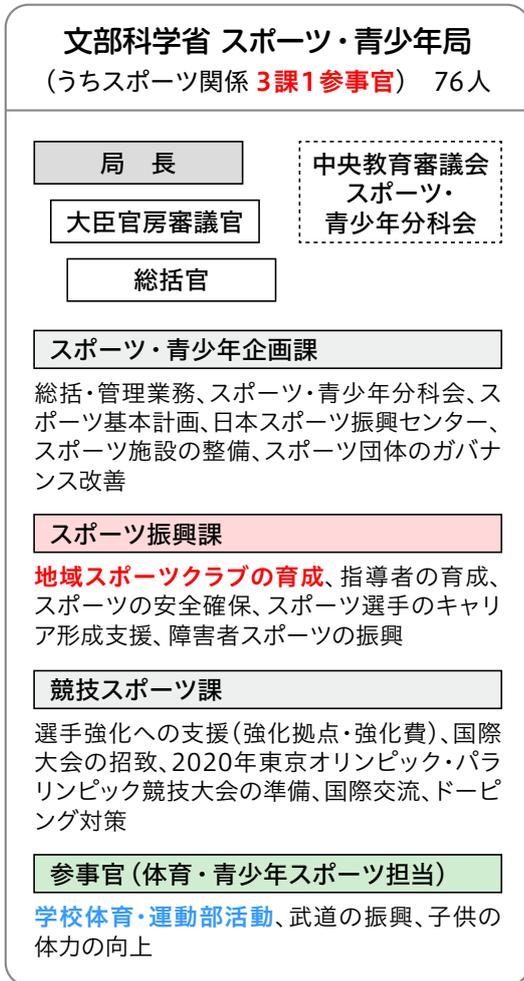
■ 改正経緯

スポーツ人口の増加、地域スポーツクラブの成長、アマチュアとプロの関係の変化など、スポーツを取り巻く社会状況の変化に対応するために、「スポーツ振興法（昭和36年制定）」が全面改正された。

[詳細→](#) [スポーツ基本法リーフレット \(P.4参照\)](#)

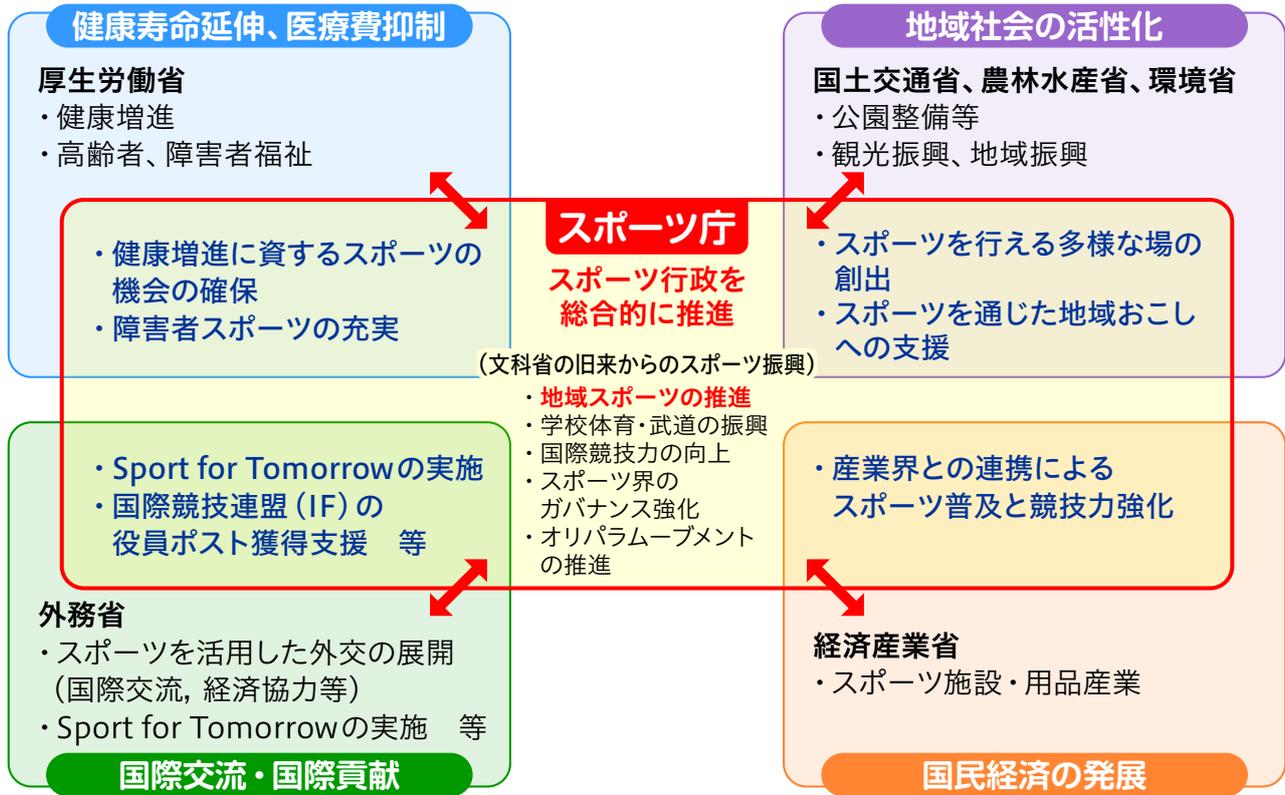
2 スポーツ庁の設置について

平成27年10月に設置されたスポーツ庁の概要・理念・取り組む課題をご紹介いただきました。



スポーツ庁の理念・施策

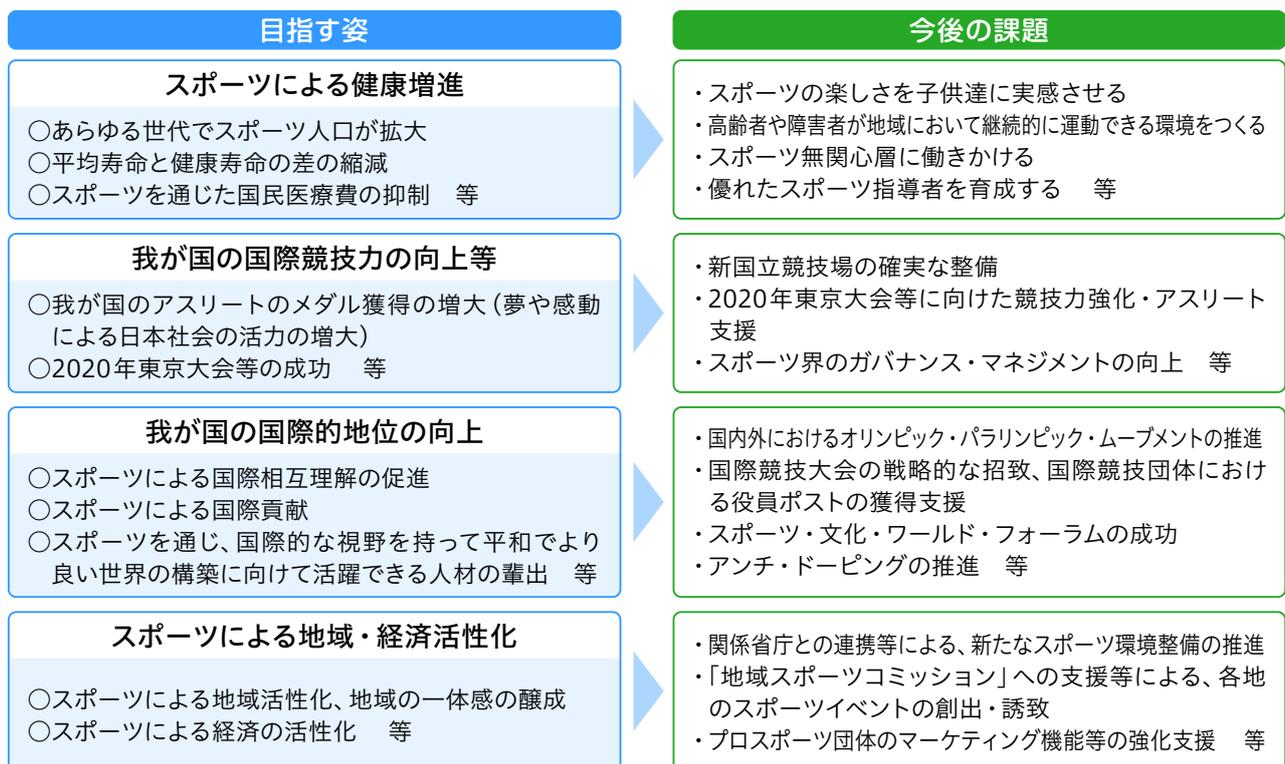
スポーツを通じて「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む」ことができる社会の実現を目指す。（基本法前文より）



スポーツ庁が中核となり、旧来からのスポーツ振興に加えて、他省庁とも連携して多様な施策を展開

スポーツ庁において取り組む主な課題

スポーツ基本法の理念を踏まえ、スポーツを通じ「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む」ことができる社会の実現を目指す。

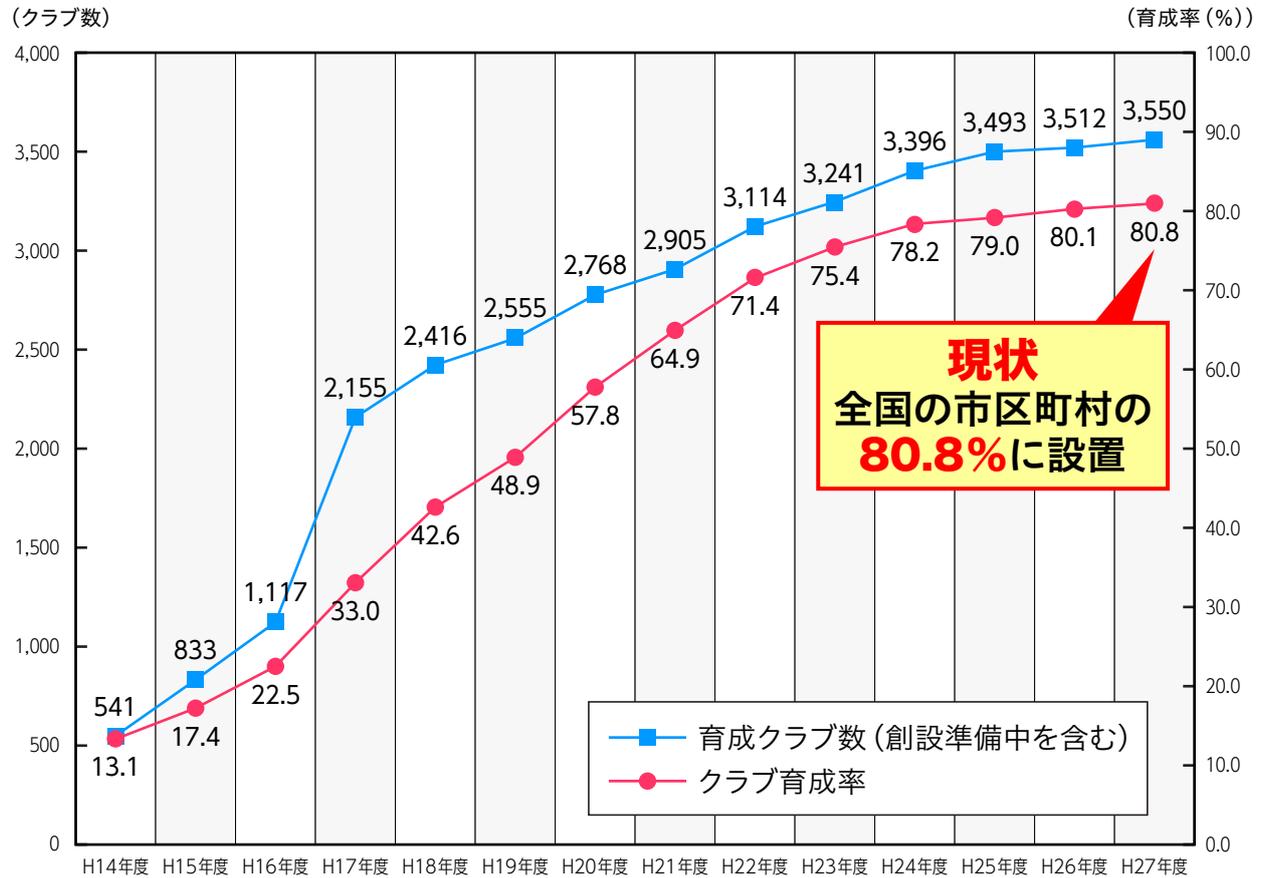


3 総合型地域スポーツクラブに関する施策の方向性

総合型クラブに関する施策の方向性として、「今後の地域スポーツの推進方策に関する提言」に記されている内容を踏まえて、説明がありました。

< 総合型クラブ設置状況 >

(平成27年7月1日現在)



(出典) 文部科学省・スポーツ庁「総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」

👉 ポイント①

「創設・育成に重点」から「財政的な自立を含め、質的な充実」

- PDCAサイクルの観点から、自己点検・評価を継続的に実施
- 多様な財源の確保をはじめ、財政的な自立も含め、質的な充実を図っていく。

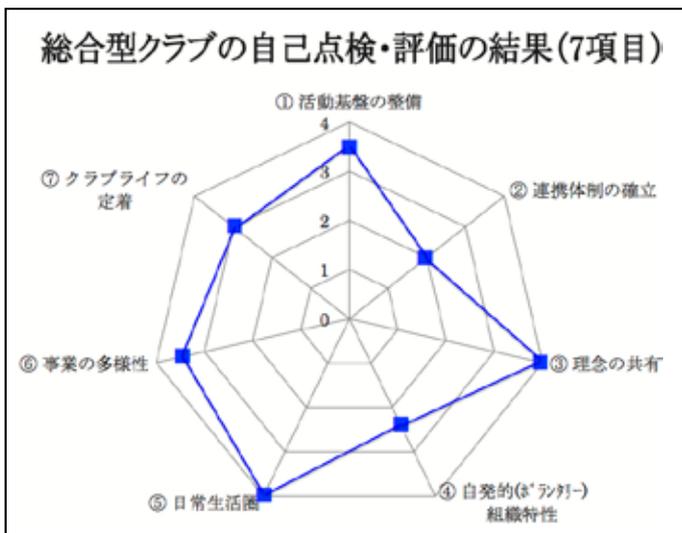
平成26年度に文部科学省委託事業として、日本体育協会が作成した「持続可能な総合型地域スポーツクラブの推進に向けた取組の指針と評価指標」を活用し、各クラブごとに自己点検を行うことで、現状把握と改善を推進。

■ 持続可能な総合型地域スポーツクラブの推進に向けた取組の指針と評価指標 概要

([詳細](#) → [日本体育協会 ホームページ](#))

点検・評価項目		評価	平均	
諸資源の獲得	① 活動基盤の整備			
	事務局体制の整備	CN及び事務局員の配置体制	4.0点	3.5点
		CN及び事務局員の配置条件	3.5点	
		公認マシント資格の取得(クラブ単位)	4.0点	
	指導者の確保	公認資格を有するコーチ指導者の確保	3.0点	
		指導者研修会の実施	3.5点	
	受益者負担の理解(財務的自立)	3.0点		
	活動拠点を確保	(右記いずれかの施設を確保)	3.5点	
		学校体育施設の利用		
		公共スポーツ施設の利用		
上記以外の施設の利用				
事務局スペース(クラブハウス機能)の確保	3.5点			
サロンスペース(クラブハウス機能)の確保	3.5点			
組織体制の整備	② 連携体制の確立			
	市区町村との連携	1.5点	2.0点	
	学校との連携	2.5点		
	地域自治組織との連携	2.0点		
	地域スポーツ団体との連携	スポーツ少年団		2.0点
		単一種目クラブ・団体等		3.0点
		地区体育協会(振興会)等		1.0点
		他の総合型クラブ等		2.0点
地域民間組織・団体との連携	2.0点			
組織体制の整備	③ 理念の共有			
	理念の共有	4.0点	2.5点	
	④ 自発的(ボランティア)組織特性			
	会員の自発的な参画	3.0点		
	効率的な体制	2.0点		
継承性に関する人材確保	2.5点			
成果の創出	⑤ 日常生活圏			
	日常生活圏の重視(地域密着)	4.0点	3.5点	
成果の創出	⑥ 事業の多様性			
	多様な事業	サークル・教室事業		3.5点
		文化活動の充実		4.0点
		会員交流事業		3.0点
		地域交流事業		3.5点
	多世代化(対象の拡大)	3.0点		
多志向化(目的の拡大)	4.0点			
複数種目の実施者	3.5点			
成果の創出	⑦ クラブライフの定着			
	「マイクラブ」意識	3.0点		

現状を評価指標(KPI)と照らし合わせ、該当する評価を下表に記載する。下図に反映する際、左表内の「平均点」の数値を用いて作成する。



自己点検・評価の結果について、左記のような図を用いることにより自らの長所・短所を具体的に把握し、可視化できるとともに、指針の到達に向けた取組事項が明らかとなる。

出典：(公財)日本体育協会
「持続可能な総合型地域スポーツクラブを目指して」

ポイント②

多様なニーズや地域課題に応えるための「社会的な仕組み」として充実・発展

- 新たな取組・形態によりクラブを発展させていくことが重要
- 高齢者の健康づくり、障害者のスポーツ活動支援、学校やスポーツ少年団との指導協力
- 民間フィットネスクラブ、学童保育・放課後教室と連携 等

「総合型地域スポーツクラブ活動状況調査」から、特色ある多様な取組を実施している総合型クラブが多くあることが見えてきた。

地域やクラブの実状に応じて、以下のような取組を実施することにより、クラブを発展させていくことが重要である。

参考→ 「今後の地域スポーツの推進方策に関する提言」(H27年6月) P.85～89

■ 特色ある取組を実施している総合型クラブ数

スポーツを通じた健康増進

地域住民を対象とした健康づくり事業を実施：**1,157クラブ**

行政から介護予防事業を受託して実施：**179クラブ**

子育て支援

学童保育や放課後子供教室への指導者の派遣：**297クラブ**

学童保育や放課後子供教室との協働によるスポーツ教室等の開催：**332クラブ**

親子と一緒に参加できるスポーツ教室等の開催：**958クラブ**

学校との連携

学校で運動部活動を実施できない種目について、クラブの活動として実施：**392クラブ**

クラブから学校の運動部活動に外部指導者を派遣：**304クラブ**

クラブから学校の体育の授業に指導者を派遣：**241クラブ**

障害者スポーツの推進

障害者スポーツと連携した取組：**160クラブ**

(出典) スポーツ庁「平成27年度総合型地域スポーツクラブに関する実態調査」

ポイント③

近隣クラブとのネットワーク化

- 自立したクラブ運営や活動を継続して実施するため、法人格の取得や指定管理者制度の活用、近隣クラブとのネットワークの構築 等

「総合型地域スポーツクラブ活動状況調査」から、総合型クラブ間でのネットワークを構築し、連携・協働して、事業を実施している事例やスポーツ活動だけでなく地域の課題解決に向けた取組を実施している事例が増えてきていることが見えてきた。

こうした取組により、クラブの抱える課題(行政との調整、財源の確保、活動拠点施設の確保、会員の確保等)を解決できる可能性があると考えられる。

安定的な財源の確保に取り組むクラブ

NPO法人 かがみいしスポーツクラブ ＜福島県岩瀬郡鏡石町＞

日本体育協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取組が求められます。

そこで今回は、事業受託・会費の設定を工夫するなど、財源の確保に向けた取組を行っているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① 補助金・助成金依存からの脱却、会員が納得した上で会費・参加料改正を実行
- ② 行政との連携と自発的な提案により、地域に密着した事業受託
- ③ 会員・地域住民との積極的なコミュニケーションでニーズを把握



1 クラブ概要

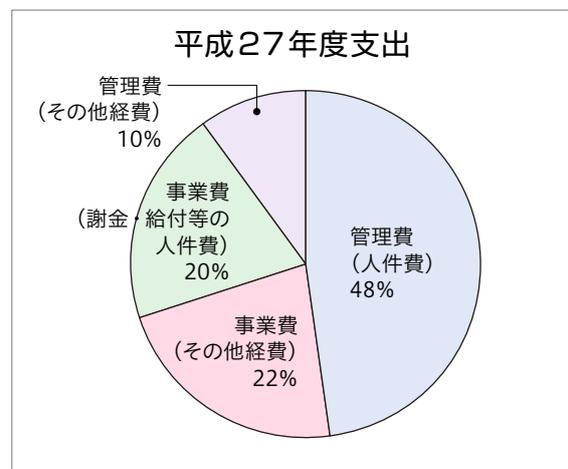
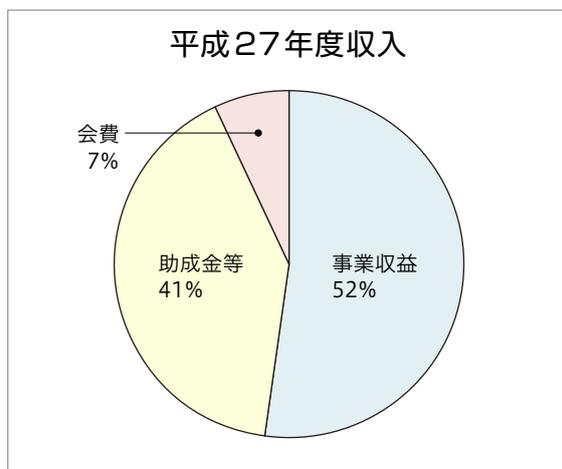
かがみいしスポーツクラブは、青少年健全育成と地域住民の生涯スポーツの推進を図るとともに、スポーツを通じた「多世代交流」「仲間づくり」「健康・生きがいくくり」を推進し、「みんなの笑顔があふれる鏡石町にしていきたい!」という理念のもと、平成21年2月に設立しました。

また、さらなる活動の充実と地域のニーズに迅速に対応できる組織体制を整えるために、平成24年度にNPO法人格を取得しました。このクラブは、誰もが気軽にス

ポーツを楽しめるクラブとして、主に鏡石町内の体育施設を利用し活動しています。

主な活動としては、サークル活動(クラブ開催定期活動)14種目、スクール活動(クラブの趣旨に賛同する加盟団体の活動)、各種教室イベントやコミュニケーション促進事業があります。

活動拠点である鏡石町とも常に連携を図り、各種支援や事業の委託を受け、一緒に地域スポーツの振興やコミュニケーションの活性化に取り組んでいます。



2 クラブ継続に向けての会費・参加料改正

かがみいしスポーツクラブの、一番主となる活動はサークル活動(クラブ開催定期活動)です。しかしながら、設立当初の定期活動は会費の設定が安すぎたため、年間で約100万円の赤字がありました。この赤字分の100万円(講師謝金等の必要経費)は補助金・助成金で補っていました。

このままの方針では補助金・助成金への依存が強く、クラブ運営が立ち行かなくなると懸念し「補助金・助成金はずっと続くものではないこと」をクラブ役員に周知し「補助金・助成金がなくなった後の運営」について役員会で検討を重ねました。

そこで、クラブで行ったのが会費・参加料の改正です。会費・参加料は受益者負担とし、補助金・助成金がなくてもクラブ運営が成り立つよう、事業ごとの必要経費を計算し、料金の改正を行いました。それ

と並行して、参加する会員の皆さんに「活用していた補助金・助成金がいずれ無くなること」や「活動を継続発展させるために活動で活動会費が変更になる」旨の文書を送付し理解を求めました。

会費を改正することで「会員が離れてしまうのではないかと心配されました。しかし、会員からは「今までが安すぎましたよね」等と言ったありがたいお声などもいただき、会費改正が原因で退会する会員はほとんどおらず、改正前よりも会員が増えました。しっかり会費を払う事で、会員の活動へ参加する意識も向上したと思います。

現在では、定期活動で安定した収益が確保できるようになってきました。今後も会員や地域のニーズに合った事業を運営し活動を充実させる事で、組織の強化と安定的な雇用の確保に繋がると考えています。

3 クラブの安定運営に向けての事業受託

クラブを安定的に継続・発展させ事業の充実を図るためには、行政との連携・協力、支援が必要です。

平成23年度は、財源の約75%が補助金・助成金でした。クラブを安定的に継続・発展させるための対策として、「会費・参加料の改正」と合わせて、設立当初から連携を強化していた鏡石町と検討し、財源を確保

する1つの手段としてNPO法人格を取得し、各種事業を受託することとなりました。

平成24年12月にNPO法人格を取得し、平成25年度から、「各種教室の指導」(下表参照)や、牧場の朝のまち“さくらウォーク”、“あやめウォーク”をはじめとする「地域イベントの企画運営」等、さまざまな事業を受託しています。

■ 受託事業

連携部署	教室名／事業名	
健康福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ● ラジオ体操指導 ● ニュースポーツ指導 	各行政区集会所等へ出向き指導
教育課	<ul style="list-style-type: none"> ● ノルディックウォーキング ● ヨガ ● ニュースポーツ ● 基礎運動・体力づくり教室 	教育課より依頼を受け、単発教室として実施
教育課	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども運動教室 	幼児・児童を対象とした体力づくり教室や各種スポーツ教室の企画運営を4～9月に24回実施



イベント運営



子ども運動指導



定期教室



定期活動

事業受託にあたっては、クラブだからできることを考え、町に提案し、より良い企画運営を出来るように工夫しています。

各種教室指導では、基礎運動や運動遊びの指導に幼稚園・保育所や小学校へ、健康運動やニュースポーツの指導へ各地区の老人クラブに指導へ行きます。

地域の方々の主な移動手段は車で、体育施設への移動手段がない方も多くいます。事業を受託したことにより、クラブから地域へ出向き各種指導ができるようにな

り、より多くの方に体を動かす機会を提供できるようになりました。

また、事業受託により地域との関わりが増えました。幼稚園・保育所、小学校、観光協会、商工会、地区の老人クラブ等の関係各所と連携し、地域のイベントや祭りに関わる事ができるようになり、地域おこしの一翼を担うことができるようになりました。たくさんの人と繋がり、「かがみいしスポーツクラブ」という名を覚えていただけるようになりました。

4 今後の課題・展望

活動に参加するたくさんの方の笑顔を活気にクラブ運営をしています。今後も「みんなの笑顔があふれる町づくり」をミッションに掲げ、1人でも多くの方が活動を通して笑顔で元気になれるようにしていきます。

「健康意識の向上」、「きっかけ作り」、「競技力の向上」や「コミュニケーションの活性化」など多種多様なニーズが地域にはあります。引き続き、鏡石町と連携して町

民アンケート調査を実施し、それを基に事業を計画するとともに、会員や地域の方々とのコミュニケーションを図り、話をする中でニーズを把握し、それぞれに合わせたプログラムを提供できるように組織を強化し、地域になくしてはならないクラブになる事が、安定運営への近道と考えています。

50年、100年とクラブを継続発展させ、地域に愛される魅力あるクラブにしたいです。

(NPO法人 かがみいしスポーツクラブ)
クラブマネジャー 稲田 俊一)

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成21年2月24日(平成24年12月18日法人登記)

所在地 : 福島県岩瀬郡鏡石町

運営 : 会員数670名 予算規模1,700万円(平成28年度)

有給職員 : 2名

特徴 : みんなが元気なクラブです。スタッフはもちろんですが、活動している人たちみんなが元気です。子どもからお年寄りまでたくさんの方が活動に参加していますが、上手になりたい、運動不足解消、体力をつけたい、楽しみたいなど目的も様々です。いろいろな人が集まり、多くの方と交流を図れるクラブです。

■連絡先

郵便番号	969-0404
住所	福島県岩瀬郡鏡石町緑町199番地 鏡石町営鳥見山陸上競技場内
TEL	0248-62-1600
FAX	0248-62-7651
Eメール	k-sc@swan.ocn.ne.jp
ホームページ	https://www.facebook.com/kagami.sc/

安定的な財源の確保に取り組むクラブ

NPO法人 ゆめフルたけとよスポーツクラブ ＜愛知県知多郡武豊町＞

日本体育協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取組が求められます。

そこで今回は、事業受託・会費の設定を工夫するなど、財源の確保に向けた取組を行っているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① スポーツも受益者負担！ ニーズを探り、顧客満足度を上げる
- ② 行政と良好な関係を築き、事業受託をきっかけに積極的な提案を！
- ③ 地域密着のクラブ経営と次世代の育成を進める



1 クラブ概要

地域の小中学生のスポーツ運動能力が低下している中、文部科学省の施策に後押しされる形で、住民の英知と行政の支援のもと設立されました。既存団体を母体を持たず町内にただ一つのクラブをつくることにより、しがらみなく運営する形をつくり、「スポーツ活動を通じて子どもから大人までの町民が心もからだも健康でイキイキと暮らせる町づくりに貢献する」ために日々努力しています。

法人格取得後は、幼児対象教室と高齢者対象教室の強化をはかり、理念の継承と今後のクラブ基盤強化に必要と思われる若い世代(20代常勤職員)を雇用しました。また、指導者研修会(指導者講習会・リスクマネジメント講習会・AED講習会)を行う事により指導者のスキルアップ・リスク回避・接し方・緊急時の対応等を学んでいただく機会を年数回つくり、顧客満足度を上げる事にも努めています。

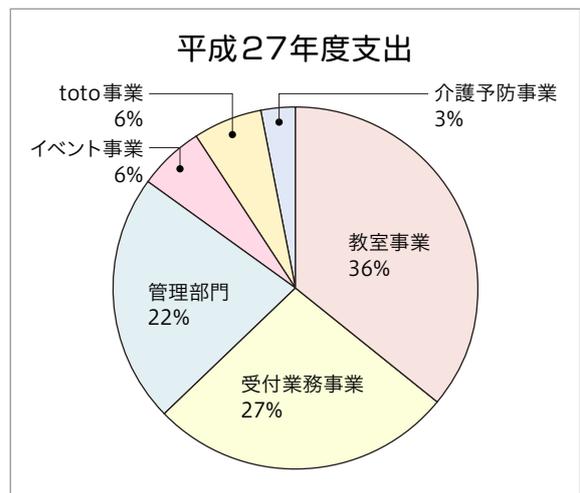
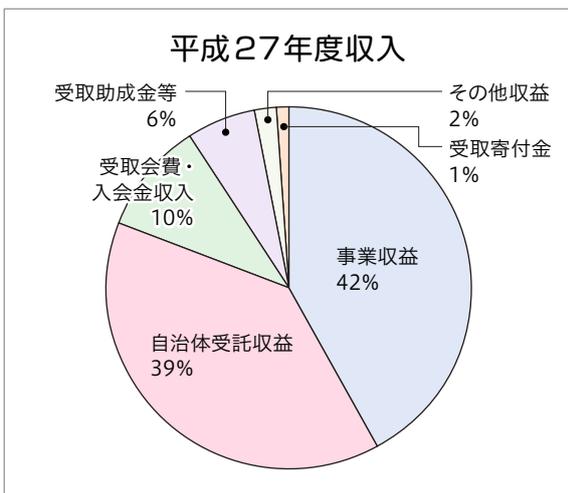


2 財務計画作成によるマネジメント強化

財務計画については、平成24年度日本体育協会公認クラブマネジャー資格取得の折に作成した5ヶ年間の事業収支計画をもとに、単年度事業収支計画をたて、以後3ヶ年毎の事業収支の見直しと5ヶ年毎の事業収支の見直しをはかり財務計画を作成しています。財務計画や予算は、理事会にて協議

し、承認を得ています。

当クラブは、会費を納めればすべての事業(教室)に参加できる形ではなく、会費を払い、その上に参加したい事業(教室)の参加費を納める仕組みとなっています。会費は、会員がクラブを支える資金として払い、会員がクラブを支えるという意識をもって



参加していただくために設けています。

なお、会費設定は、できるだけ安価に設定し、会員がクラブを支えるために負担にならない金額を設定しています。

また、参加費設定については、社会情勢の変動（消費税等引き上げ）でやむをえない金額の上乗せと、対象世代、地域ニーズ、事業（教室）の指導内容、顧客の満足度、施設利用料等の必要経費を踏まえて固定費と変動費の区分けを行い設定しています。よって、毎年の参加費見直しの折には、地域ニーズが高く、また、顧客満足度の高い教室については、基本的に参加費の値上げの検討を行い、必要に応じて価格改定を行います。

参加者のニーズや満足度の調査に関しては、アンケートを行い、広く意見を集めているほか、実際の教室において参加者の雰囲気を感じ、生の声を聞かせていただくことを重視して行っています。

参加費の値上げについては、よく指導者等から「参加費を上げると参加者が減る」という声がどのクラブでも上がりがちです。

当クラブも初めのうちはそうでしたが、その時にクラブマネジャーから指導者へ投げかけた言葉は、「私は、事業（教室）の内容を満足させ、費用対効果のある内容を提供していない。私にはこれ以上の指導はできないと言っているようなものですよ」「皆さんは、日々参加者の皆さんと接し、工夫をしながら参加者に指導をしています。皆さんの指導で参加者が満足されていると判断しているから、参加費を上げることができるんです」というものでした。

この言葉を聞いた指導者は、ほとんどの方が「参加費を上げたら参加者が減る」ということは言わなくなるうえ、指導に対するモチベーションも高まっているように感じています。

参加者のニーズに沿い、満足度さえ上がっていれば、参加費の値上げは、さほど問題なく受け入れていただけるものです。その証拠に、参加費を上げた当初は若干の参加者減はありますが、値上げして半年もしくは1年が経つと、値上げ前と同じ参加者数の水準に戻っています。



日本体育協会公認クラブマネジャーとは？

総合型地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ会員が快適なスポーツライフ（クラブライフ）を送ることができるよう、経営資源を適切に確保し、円滑に活用するために必要なマネジメント能力を身に着けるための資格です。

資格取得には？

日本体育協会が実施する公認クラブマネジャー養成講習会を受講し、検定課題（事業計画書の作成および事業計画書に基づくプレゼンテーション）に合格した方を「公認クラブマネジャー」として認定しています。

カリキュラム

	科目名	時間数	日数
前期	(1) コミュニケーションスキル	34時間	4日間
	(2) マーケティング	17.5時間	
	(3) 経営戦略	15時間	
	(4) 運営	20時間	
	(5) 財務	14時間	
後期	(6) 評価	16時間	3日間
	(7) 実習	16時間	

➔ 詳細は[こちら](#)

3 積極的な事業受託と提案型の事業受託

● **スポーツ振興事業** 行政がスポーツの普及を推進するために行っていたスポーツ体験教室・短期教室を、クラブの法人化前には、行政から補助金を受け、一部実施していました。法人格取得後は、クラブから行政に働きかけ、受託事業として実施できるようにしました。その後は、各世代で継続的に参加できる教室を行うようにし、気軽に参加できるイベントやスポーツ教室を行うようにしました。

● **体育館受付業務** 法人格取得と同時に、将来的な指定管理受託を見据えて、事務所の所在地である体育館の受付業務を受託しました。この受託にあたっては、クラブから行政に働きかけ、最初は日中受付業務から始め、段階的に終日受付業務を行うようになりました。新しい雇用場のつくるとともに、来館時間の推移や来館状況、来館者の声をじかに聞くことにより、来館者のニーズを収集し、将来の指定管理受託に備えています。

● **介護予防事業** 高齢化社会が進む中、高齢者の居場所づくりや高齢者の医療費削減が当町でも大きな課題でした。クラブでは、この課題解決の一助として、高齢者に来ていただいて教室に参加していただくのではなく、地域の公民館等に出向いて、高齢者が気軽に集まり体操をすることによって、体力維持をし、転倒しにくく、また、転倒しても骨折しにくい体づくりを実施する「体操サロン」事業を行政に提案しました。

当初は、新しい事業、新たな予算組みが必要であったため、運動効果と高齢者医療費削減の関連性の説明でかなり苦労をしましたが、何度も説明をし、初年度に大学の教授に協力いただいて意識調査・体力チェック等を行い、ある程度成果が実証されれば事業継続という条件のもと開始しました。事業受託当初1ヶ所であったものが、現在町内2ヶ所で開催するまでに至り、平成30年をめどに4ヶ所で毎週開催をする予定で現在進行中です。



法人格取得を機に、行政との間に一線を設け、対等に話ができる状況にしたことが、事業受託にあたってはよい影響を及ぼしました。

地域密着のクラブ経営と次世代の育成 ～ 補助金に頼らない仕組みに向けて～

クラブが設立されたことにより、子どもから高齢者まで多種目多世代の事業(教室)が増えました。特に子どもと高齢者の参加できる事業(教室)は、設立以前に行政が行っていた事業(教室)に比べると断然増えました。

子ども達については、競技スポーツだけでなく、スポーツを体験する機会と楽しむ機会を提供することができ、より多くの子どもがスポーツを行える環境の整備ができています。また、高齢者については、運動習慣が身に付き、健康増進体力維持の一助になっていると思われます。

当クラブが受付業務を行う事により、利用者からの意見や要望を的確に把握することができ、クラブ職員からの新たな提案も増え、使用条件の向上がなされるようになりました。

クラブ創設メンバー(第一世代)は、地域での課題を掘り下げ、よりスポーツが出来る環境づくり、多世代が触れ合い助け合えるコミュニティづくりに邁進し尽力をしてきました。設立から7年をすぎ、やっとある程度の形ができ動いています。現在、設立メンバー(第一世代)は、この達成感

とやり続けたという自負で一杯です。

しかし、実際はこれで終わりではありません。設立メンバー(第一世代)は、自分たちや会員がつくりあげた理念を次世代に継承し、次世代がクラブで生計をたてる事が出来る仕組みをつくる事が最後の仕事です。当クラブも、次世代育成のため2年前から20代の常勤職員を雇用し、この職員がこのクラブで生計を立てることが出来る環境と仕組みをつくっています。

現在は、toto助成を受けているため、その助成金を賃金に充てていますが、1年半後には助成事業が終了します。すでに、助成事業終了後を見据え、助成金に頼らず賃金を払うための財務計画を立てています。

最後に、クラブが存続し続ける条件は、常に地域ニーズに目を向け地域課題を敏感に察知しクラブができる事を行い、人と人を繋ぎ、人とクラブを繋ぎ、人と地域を繋ぐ活動を地道に行う事により、クラブが地域に必要な存在になることが一番大切だと考えています。すなわち、私たちはいつも謙虚に地域と向き合うことが一番重要だと思います。

(NPO法人 ゆめフルたけとよスポーツクラブ)
事務局長兼クラブマネジャー 鳥本 靖之

クラブプロフィール

設立年月日：平成21年3月15日(法人登記：平成23年11月9日)

所在地：愛知県知多郡武豊町大字東大高字清水128番地
武豊町総合体育館内

運営：会員数910名(平成28年3月末現在)、
予算規模 約3,200万円(平成28年度)

有給職員：11名(常勤職員2名、臨時職員(パート職員)9名)

特徴：生涯スポーツ社会の実現と地域社会の再生を目的として、平成21年3月15日に「武豊町スポーツクラブ」を設立し、地域住民の自主参加による地域密着型の組織をめざし、平成23年11月9日に「NPO法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ」を設立しました。このクラブは、住民のニーズをとらえ、将来を担う子ども達や、高齢化社会への対応をはかるために、各種スポーツ教室やイベントの企画、指導者の育成やスポーツ活動の支援を行っています。

■連絡先

郵便番号	470-2521
住所	愛知県知多郡武豊町大字東大高字清水128番地 武豊町総合体育館内
TEL	0569-84-1100
FAX	0569-84-1101
Eメール	info@taketoyo-sc.jp
ホームページ	http://www.taketoyo-sc.jp

特集

地域住民間の交流・親睦を深めるクラブ

稲穂ファミリースポーツクラブ ＜山形県鶴岡市＞

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、地域づくりまでも視野に入れ、スポーツの楽しさや喜びを拡充・普及させる公益的な活動を行い、地域から信頼される組織となることが重要です。そのためには、地域住民のニーズにあった各種事業を実施することによって、当該地域におけるクラブの存在感を高め、信頼感・親近感を得ることを目指す取組が求められます。

そこで今回は、地域住民間の交流・親睦を深める取組を行っているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① 会員間の交流を深めるために、多種多様なイベントを開催
- ② 自分たちのクラブハウスを設置し、世代を超えて交流を深める
- ③ スタッフも役割分担をし、得意分野で力を発揮

1 クラブ概要

スポーツ少年団（昭和45年4月結成）の育成母集団活動から総合型クラブに発展。「いい汗流そう われらスポーツ家族」を合言葉に、家族みんなで参加し、家族一人ひとりが定期的にスポーツを楽しみ、そしてみんなの知恵を出し合い、お互いに支え合い、運営するスポーツクラブです。スポーツ少年団は「子どもたちが主役」でしたが、クラブは「家族みんなが主役」ということで、「三世代で参加するスポーツクラブ」を目指しています。

2 交流・親睦を深めるための取り組み

クラブでは、4つの活動を柱に、以下の活動を行っています。

■ 4つの活動の柱

- ① 仲間づくり ② 体力づくり ③ 自然とのふれあい ④ 交歓交流

3 会員交流のための様々な工夫

(1) 運営の工夫

クラブの運営は会長、クラブマネジャー、9名のサブマネジャー含め役員が54名おり、イベントの担当やサークルの運営、事務局担当などそれぞれ役割分担しています。また、いろいろな職業の人がいて異業種交流もでき、得意分野でその力を発揮してもらっています。

(2) クラブハウスは魅力いっぱい

昭和61年11月に設置したクラブハウスは、会員のみんながお金を出しあって借りているものです。指導者、事務局の仕事場として、スポーツ少年団員の勉強の場として、会議・反省会・交流会の会場として、会員はいつでも自由に使えます。また、毎週水曜日夜は「わいわいがやがや亭」として会員に開放しており、まさに世代を超えての活動拠点になっており、クラブハウスの力は大きいです。

(3) 一番のイベント

12月に実施している「会員大交流会」は、地域のコミュニティセンターホールを会場に、日頃お世話になっている方々もご案内し、毎年100人を超える参加者で交流を深めています。みんなで「四季の歌」を歌ってスタートし、出し物、プレゼント交換などをし、会の最後にはキャンドルサービスを行います。

(4) 被災地支援も継続して

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災地支援活動を毎年継続し、平成23年に3回(石巻市に炊き出し)、平成24年に1回(南三陸町仮設住宅団地の夏まつり支援)、平成25年に2回(夏まつり支援とサッカー少年団を招いての合同夏合宿)、平成26年に1回(サッカー少年団を招いての合同夏合宿)、平成27年に1回(宮城県東松島市仮設住宅団地の敬老会支援)実施し、今年度も10月15日に昨年に引き続き敬老会支援を実施します。

(5) 手作り料理と500円ワンコイン

イベントやサークルの交流には懇親会が付き物です。中には会費は500円ワンコインで、プラス500円程度の手作り料理を一人1品持ち寄りで幹事の負担を軽減しているサークルもあり、みんなで楽しめるように様々な工夫をしています。

(6) 会計について

年間予算は822,500円ですが、主な財源はクラブ年会員の会費(一家族、年6,000円)で、支出はクラブハウスの管理費と通信費、コピー機などの事務費等です。また、このほかに、所属するサークルやイベントの参加費は各自負担としており、それぞれのサークル等の会計についてはそれぞれ独自に処理をしています。

4 課題と展望

クラブのスポーツ活動の場所は小・中学校の体育館やグラウンド、武道場、そしてクラブハウス・空き地などであり、活動内容にも限りがあります。まだまだ地域には、健康づくりや生きがいづくりのためにスポーツをやりたい、お金を出してクラブに入りたい、仲間といっしょに活動したいという人たちも多くいると思いますので、そのためにも、更にクラブの魅力づくりに取り組み、クラブの存在をPRし、学校・地域等との連携を深めて、仲間を増やしていきたいとします。

5 会員の声

- 私の子どもは男の子4人で皆スポーツ少年団に所属しました。私も通算10年間スポーツ少年団とともに活動しましたし、子どもの成長を見ながら、いろいろな親子の活動も、親同士の活動も大変楽しかったです。それ以来、「ソフトボールクラブ」や「けやき元気村」の活動、そして、グラウンドゴルフ大会などに今も参加しており、37年間も係わっています。気の合う人たちとの活動は楽しいです。(76歳 男性)
- 子どもがスポーツ少年団に入団してから12年になります。子ども2人は高校生になり、部活動のサッカーをしながら、リーダーとして継続して活動しています。私もクラブのママさんサッカーチーム「ママダチー」と「元気いっぱいスポーツ広場」、そしていろいろな交流イベントに参加しています。親子三代、家族みんなで楽しんでいます。(43歳 女性)

(稲穂ファミリースポーツクラブ)
クラブマネジャー 村田 朋子)



日本スポーツ少年団リーダー制度とは？

メールマガジン114号の特集「知って、連携！日本スポーツ少年団リーダー制度」にて解説しておりますので、ぜひご覧ください。

➔ http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabushien/MM114_H26_leader.pdf



育成母集団とは？

「育成母集団」という名称は、日本スポーツ少年団が独自に使用している名称ですが、単位団活動を支える“母体になる集団”という意味で、母親たちの集団ということではありません。スポーツ少年団は、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる地域クラブを目指して活動する団体ですから、単に子どもたちだけの集団ではなく、やがては大人も含めた地域集団の形成を目標としています。

したがって育成母集団は、子どもたちの財政面・労力面・精神面で支援するばかりでなく、地域に住むすべての大人自身もスポーツや文化活動を楽しむことができるシステムを地域に形成しようとする、極めて重要な意味と役割をもっているのです。

育成母集団の役割

- ・スポーツ少年団に対する支援、協力活動
- ・スポーツ少年団活動への理解を広め、加入促進をはかる活動
- ・育成母集団自身のスポーツや文化活動
- ・育成母集団活動への理解を広め、仲間を増やす活動

クラブプロフィール

設立年月日：平成18年1月29日

所在地：山形県鶴岡市

運営：会員数：家族会員120家族（平成27年度）
予算規模：822,500円（平成28年度）

有給職員：なし

特徴：今から47年前の昭和45年4月に「稲穂スポーツ少年団」が結成され、昭和53年から始まった日本スポーツ少年団第5次育成5ヵ年計画に、「すべてのスポーツ少年団に育成母集団を」・「育成母集団のための活動を」が織り込まれました。その呼びかけに応じた活動を行い、団員も小学生で終わらずに、中学生・高校生もリーダーとして育成し、リーダーの親もまた、育成母集団の会員として継続参加している人も多いです。親子サッカーやファミリー運動会など年数回の親子いっしょの活動も継続しており、そして「親も定期的にスポーツをしたい」と始まったのが、毎週金曜日夜に小学校体育館で行う、会員が誰でも参加できるスポーツ広場（通称：ファミリー）の活動です。この活動も36年間続いています。その後、そこから活動は広がり、親と指導者でのソフトボールチームやサッカーチーム、ママさんサッカーチームなどができ、今も様々な大会に参加しています。また、リーダーの育成においては、これまで、日独スポーツ少年団同時交流派遣事業に、シニアリーダーとして高校生・大学生、指導者も含め19名が参加しています。

■連絡先

郵便番号	997-0021
住所	山形県鶴岡市宝町4-73 クラブハウス「稲穂会館」
TEL & FAX	0235-24-8758
Eメール	inaho-turuoka@nifty.com
ホームページ	http://homepage3.nifty.com/inaho/

地域住民間の交流・親睦を深めるクラブ

高山村総合型スポーツクラブ

<長野県上高井郡高山村>

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、地域づくりまでも視野に入れ、スポーツの楽しさや喜びを拡充・普及させる公益的な活動を行い、地域から信頼される組織となることが重要です。そのためには、地域住民のニーズにあった各種事業を実施することによって、当該地域におけるクラブの存在感を高め、信頼感・親近感を得ることを目指す取組が求められます。

そこで今回は、地域住民間の交流・親睦を深める取組を行っているクラブを紹介します。

ここがポイント!

- ① 「あなたが出番です」をキーワードに全員参加を目指す
- ② 整った施設が「ない」ではなく、恵まれた自然が「ある」という発想
- ③ 住民の交流の場として認知されることで、行政の協力もスムーズに



1 クラブ概要

仲間うちで楽しむためだけの活動の場ではなく、常に地域に広く門戸を開いたクラブを目指しています。そのため、多種目を用意し、参加者を子どもから高齢者まで広げ、これまでスポーツに関心をもっていなかった人の輪を広げたり、さらにはボランティアとしてクラブの事業に協力しようという人たちの協力を得て、村民がもっと活動に参加できる場をつくりたいと考えています。

恵まれた環境に感謝し、トレッキングコースやグラウンドの整備をクラブ会員・スタッフで行い、通常のスポーツ教室やイベントに加え、世代を超えた交流ができるイベントも実施しています。また教室・イベントの実施にあたっては、地域住民も個々人の得意分野で運営に携わっています。



2 地域住民間の親睦を深めるイベント

南北ソフトボール大会

高山村は中央に松川渓谷が横断し、地域の面積と人口が丁度半分に別れています。そこに着目し、「南北ソフトボール交流大会」を毎年開催しています。

この大会は、若い頃に野球やソフトボールをやっていた方たちにもスポーツを楽しんでもらいたいと考え、始めました。年齢が上の方でも楽しめるように、選手の年齢を男性は60歳以上、女性は30歳以上とし、「ファインプレイ・全力疾走・ホームラン」の禁止等の独自のルールを設定し、4時間ソフトボールを行います。

高山村の広報誌に大会のチラシを挟み込み、地域住民にも広く参加を呼び掛けていることから、クラブ会員ではない住民も、

毎年この大会に参加しています。

村の大きさからほとんどの住民が顔見知りのような状況のため、この大会が久々の再会の場となり、参加者同士話が弾み、時が経つのも忘れるひと時となっています。試合の勝敗よりもここでの住民同士の再会を楽しみにしている参加者も多くいます。

また、毎年最高齢選手による選手宣誓を行っています。昨年度は、一昨年の選手宣誓の文言に大会参加者が曲をつけ、その曲を学校の先生がピアノ伴奏するといったそれぞれの分野で活躍いただきました。ここでもクラブのキャッチコピーである「あなたが出番です」を実践してくれました。



トレッキング

村域の約85%を森林が占める環境を生かし、トレッキングを定期的で開催しています。

ただ山道を歩くだけでなく、トレッキングの途中で温泉に入ったり、昼食用の箸作りをしたり、山の樹木に名札を掛け、樹木の名前を憶えることも行っています。その他にも、自炊やジップライン、ロングブランコ体験もあり、参加者から好評を得ています。これぞ高山村総合型スポーツクラブのスタイルと自負しています。

イベントの実施にあたっては、数日前から安全確保のために下見に入る人、昔取った杵柄をトレッキングコースの整備で思う存分に発揮してくれる少し老いた山男、ジップライン設備を手掛けるスキーリフト技術者など、それぞれの得意分野でクラブに携わり、「あなたが出番です」のキャッチ

コピーを体現してくれています。

このトレッキングも、クラブ会員のみならず地域住民に参加を呼び掛けており、参加者からはこのトレッキングに参加したことにより、山の素晴らしさを知り、自分の住んでいる地域を自慢したくなるといった声が多く聞かれます。

クラブとしても、深緑時・紅葉時の山深いトレッキングにより、村民ですら知らない大自然に抱かれて心身をリフレッシュできること、そして田舎の良さを村民が体験できることは、郷土愛を育むことにも効果があると考えています。

また、体育施設がない、グラウンドがないと思うのではなく、自分たちには恵まれた大自然があることを意識することでクラブの活動の幅が広がりました。



3 イベント後のクラブや地域の変化

イベントの実施にあたっては、地域の商店主や小規模の企業が金銭や物資（ビールやチェーンソー）の面で援助をしてくれています。また、行政では施設使用料の減免、体育施設の優先、高山村広報誌や広報無線での活動紹介等の協力をいただいています。それらも私たちの活動が認知されているからこそだと思います。また、イベ

ントの実施により、住民同士の交流の場や自分たちが住む地域への愛着をもつきっかけを提供できているのではないかと考えています。

クラブとしても、イベント・教室当日の参加者の満足度を想像しながら準備するなど、イベントを実施するまでの全行程がスタッフの絆を深めています。

4 今後の課題・展望

クラブとしては、マネジャーの常駐（有償）がなければ企画立案運営に支障をきたす事業規模になってきているため、クラブマネジャーの養成が課題となっています。

同じ村に住み、同じ時を過ごす仲間と少しでもかかわり合いを持ち、助けられたり助けたりそんな場を作りたいと思っています。

また、個人個人の持っている小さな力を7,000倍（村人口）にしたいとも考えています。これから展開する事業のひとつひとつは小さな思いつきかも知れませんが、高山村の仲間の力と知恵を結集し、毎日が健康で楽しく過ごせる事業を展開することを目指しています。

（高山村総合型スポーツクラブ）
事務局 深谷 照男

クラブプロフィール

設立年月日：平成23年2月20日

所在地：長野県上高井郡高山村高井4309-2

運営：会員数：86名（平成27年度現在）

有給職員：1名

クラブ内資格：日本体育協会公認アシスタントマネジャー 2名

保有者数 日本体育協会公認競技別指導者資格 6名

特徴：村域の約85%を森林が占める環境を生かし、イベントや教室（7種目）を年間230回程度実施しています。冬には、国内唯一のトロイカ（ベンチ式リフト）を活用し、幼稚園児から小学生を対象にしたスキー教室を開催しています。また、「このクラブではあなたの代わりはいません、あなたが出番です」のキャッチコピーのもと、誰もがスポーツ活動のどこかに関わりを持つようにし、トレッキングコース、ジップライン、グラウンド等の整備もクラブ会員・スタッフで行っています。

■ 連絡先

郵便番号	382-0826
住所	長野県上高井郡高山村高井4309-2
TEL & FAX	026-248-0365
Eメール	high-mountain@janis.or.jp
ホームページ	http://members.stvnet.home.ne.jp/highmountain/ <input type="text" value="信州高山村総合型スポーツクラブ"/> <input type="button" value="検索"/>

地域住民間の交流・親睦を深めるクラブ

総合型地域スポーツクラブ DISPORT・キラキラ うたづ ＜香川県宇多津町＞

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、地域づくりまでも視野に入れ、スポーツの楽しさや喜びを拡充・普及させる公益的な活動を行い、地域から信頼される組織となることが重要です。そのためには、地域住民のニーズにあった各種事業を実施することによって、当該地域におけるクラブの存在感を高め、信頼感・親近感を得ることを目指す取組が求められます。

そこで今回は、地域住民間の交流・親睦を深める取組を行っているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① 若者や転勤族が多い地域だからこそ、さまざまなイベントを開催
- ② 季節限定イベントの実施でクラブに興味を持ってもらうきっかけに
- ③ 様々な県の事業を活用し、質の高い指導を提供

1 クラブ概要

｜設立のきっかけ

現クラブ会長とクラブマネジャー夫妻が、県主催の講座でキンボールを体験したことを契機に、キンボール教室を設立しました。参加者の中から徐々に『キンボール以外の種目もやってみたい』というニーズが生まれてきた同時期に総合型地域スポーツクラブの存在を知り、会長とクラブマネジャー夫妻はクラブ運営に関する講習会を積極的に受講。地域住民にも声をかけ、平成20年度より宇多津町に初となる総合型クラブの設立に踏み切りました。

｜現在までの経緯

DISPORT (ディスポルト) の創造集団として、多様な地域コミュニティ活動もクラブの役割と考えています。当初、キンボールと体操の2種目が中心でしたが、今は小中学校、保健センター、会議室などを拠点に8種目の定期教室や夏休み特別講座を実施しており、平成28年度はクラブ初となる英会話教室も開始しました。

また、資格取得講座・養成講習会に参加するクラブスタッフについては、受講費用および初期登録料をクラブが負担するなど、指導者養成にも力を入れています。

2 各イベントについて

都市部の総合型クラブがイベントを行う意味と課題

宇多津町は、日本一面積の小さな香川県の中で最も小さな町です。県道を境に、北部は商業・観光施設が立ち並び県下随一の人口増加を誇る“新宇多津町”、南部は神社・仏閣をはじめ伝統的な古き良き街並みが残る“旧宇多津町”となっており、多様な文化に触れることができます。

また、クラブが活動拠点とする新宇多津町には、若者や転勤族が多いという特徴があります。そのため、クラブ会員の入れ替わりも激しく、人が流動しやすい中で地域コミュニティをどのように構築していくかが大きな課題です。こうした環境の中、まずクラブに興味を持ってもらうきっかけとして、多彩なイベントを開催しています。

｜イキイキ健康フェスタ

クラブを知ってもらうためのPRイベントとして、クラブ設立時から毎年2～3回、不定期で開催しています。ニュースポーツを毎回1～4種目体験でき、即席でミニ大会を行うこともあります。定期教室化に至っていない種目を用意しており、人気があればクラブで教室・サークル化に繋げるきっかけにもなります。転勤族が多いため、クラブを知ってもらうこととともに地域への活動に興味をもってもらうことを目的に年度初めの4～6月に開催されることが多いです。また、卓球バレーやボッチャといったアダプテッドスポーツに触れる機会にもなっています。



｜スキー教室・スノーボード・そり・温泉ツアー

クラブ設立母体であるキンボール教室の頃から、季節限定イベントとして実施してきたツアーです。北海道出身の会長が『雪と触れ合う機会が少ない香川県民のために』とはじめたもので、毎年2日間の日程で岡山県真庭市の津黒高原スキー場まで貸切バスで出向きます。定員は40名ですが、年度初めに『今年のスキーはいつですか?』と問い合わせがあるほどの人気イベントで、『会員の方が割安なので1月から会員になりたい』という相談も多く受けます。

また、県広域スポーツセンターが実施する「エキスパート派遣事業」を活用し、県内在住の(公財)全日本スキー連盟公認指導員を講師に招き、無料で質の高いスキー教室を実施しています。『このツアーでスキーの魅力にはまり、翌週に家族で再度滑りに行きました!』という声もあります。



| スケート教室

香川県のプロアイスホッケーチーム「香川アイスフェローズ」とコラボして、年1回開催しているイベントです。チームの本拠地であるトRESTA白山で、チーム選手に教えてもらうことができます。トRESTA白山は、通常10:00から入場・滑走が可能ですが、当イベントの際には8:30~9:30の1時間を無償開放してくれます。その1時間にスケート教室を行い、10:00以降は入場料を各自負担し、好きなだけ滑ることができます。

当初はクラブ会長1人が指導者を務めていたため、参加者全員に目が行きとどきませんでした。平成24年度に設立された「香川県地域密着型プロスポーツ活用協議会」の事業を活用することで、10名程の香川アイスフェローズの選手に指導していただけるようになりました。



上記以外にも、クリスマス会やキャンプ等、会員間交流のイベントを年間10回以上開催しています。

また、県内クラブと合同でイベントを開催したり、県外クラブ主催の大会に赴いたり、県内外問わず、他の総合型クラブとの交流も大切にしています。

3 今後の課題・展開

| 今後の課題

■ PRの難しさ

新聞やポスター、フライヤー等でイベントのPRや会員募集をしていますが、まだまだ情報が届きにくい状況にあります。広報の充実のためにもイベントを増やし、地域の皆さんにクラブ活動への理解、参加を促す機会を多く設ける必要があると考えています。

■ 運営スタッフ、指導員の確保

当クラブのスタッフおよび指導員は専従ではありません。それぞれが仕事を持ち、時間をやりくりして運営、指導に当たっています。スタッフ・指導員が増えると、教室の開催曜日や時間も会員の要望に応えられ、参加者の増加と、運営と指導の充実につながると考えます。そのためにも、地域住民が「運営に関わってみたい!」と思うような魅力あるクラブを目指しています。

| 今後の展開

■ 見る、する、支える

会員へのサービスとクラブの将来を考えると、運営スタッフの構成も多世代で対応し、次の世代がクラブ運営、指導の中心となるよう、幅の広い世代に運営に関わっていただきたいと考えています。

■ 運営、指導の充実

目指すクラブのイメージは、バイキングレストランのようにいつでも好きなメニューが選べ、なおかつデパートのような品揃えの豊富さ、質の高さをもつクラブです。

当クラブは、今は二十貨店ですが将来は百貨店となれるよう、幅広い年代の方にそれぞれの目的・目標・ライフスタイルに応じたメニューを用意して、一週間に1時間以上運動する楽しみを持ってもらえるクラブづくりを目指しています。

地域の多くの方に、家族で、職場や学校の仲間で、部活動の補習として、企業のレクリエーション等で、大いに当クラブを活用していただければと願っています。

(香川県クラブアドバイザー 山家 春香)

クラブプロフィール

設立年月日：平成22年3月28日

所在地：香川県宇多津町

運営：会員数：86名(平成27年度現在)
予算規模：190万円(平成27年度)

有給職員：なし

クラブ内資格：日本体育協会公認アシスタントマネジャー 5名

保有者数 日本体育協会公認フィットネス指導者 2名

日本障がい者スポーツ協会公認中級障がい者スポーツ指導者 1名

日本スポーツクラブ協会公認マスタースポーツクラブインストラクター 1名

日本SAQ協会インストラクター 1名

特徴：「DISPORT(ディスポート)は、世界共通の人類の文化」をクラブの在り方とし、スポーツの語源と言われている「DISPORT」=「楽しむ」「遊ぶ」「はしゃぐ」「気晴らし」を活動の中心としています。障がいの有る無しに関わらず、潜在スポーツ愛好者の「場づくり」、体力づくりや各々の適性、可能性の発見、健康維持・増進、予病とアンチエイジングへのサポートをしています。

■連絡先

郵便番号	769-0207
住所	香川県綾歌郡宇多津町浜七番丁94-1
TEL	090-8166-3386
Eメール	info@disport-kirakira.jp
ホームページ	www.disport-kirakira.jp

会員や地域住民に向けた広報を行っているクラブ

NPO法人 赤べこトータルスポーツ

<福島県河沼郡柳津町>

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、会員および地域住民に向けて積極的に情報を公開し、クラブの理念や活動状況を知ってもらう必要があります。

そこで今回は、会員や地域住民に向けて積極的に広報を行っているクラブを紹介します。

👉 ここがポイント!

- ① パンフレット・広報誌等多くの媒体を活用!
- ② 行政と連携し、自治体の発行物とあわせて各世帯に配布!
- ③ 掲載写真やデザインにもこだわり、伝わりやすい内容で作成!



1 クラブ概要

高齢者の医療費増大や町民・子供たちのスポーツをする機会の減少、スポーツをする人とならない人の二極化の問題が顕在化してきている中で、平成20年に当時クラブの運営委員長（現在の理事長）が議会の一般質問で提案し、当時の教育長の働きかけでスポーツクラブを設立しました。

健康のためにレクリエーションとしてスポーツを楽しみたい人の受け皿としていくつかの教室を開催し、誰でも取り組みやすい運動を通じて会員の健康・体力の保持増進、地域コミュニティの活性化を目指し、地域密着型のクラブとして活動してきました。

今後安定したクラブ事業の提供が求められている中、クラブの信頼性を高め、経営の透明化と自主財源の確保を図るため、クラブのミッション・ビジョンを描きながら、平成28年1月19日に法人格を取得しました。平成28年4月からはNPO法人として新たな体制で活動をしています。

使用している広報ツールの 内容・作成方法・活用方法等

■ 広報ツール一覧

【会員募集】

発行物名	会員募集パンフレット	赤べこ広報	講習会・イベント等要項	
作成目的	「地域住民」を中心にクラブの活動・目的に興味を持ってもらい、参加・賛同してもらう	会員以外に「地域住民」に幅広くクラブの活動を知ってもらう	参加者や会員を増やすため	
掲載内容	・募集規約 ・各教室の案内 ・NPO法人の目的の説明 ・賛助会員の紹介	・活動報告、教室紹介 ・totoで購入したスポーツ用具の紹介 ・賛助会員企業の紹介	各教室のPR	各教室の案内、イベントの開催予定
配布対象	各世帯	各世帯	会員	各世帯
配布方法	区長文書を利用し、各世帯に配布	区長文書を利用し、各世帯に配布	公民館・小中学校にも掲示	区長文書を利用し、各世帯に配布
仕様	A3両面、カラー 三つ折りパンフレット	A4両面、カラー	A4片面、モノクロ	町の広報お知らせ版に掲載
発行頻度	年1度(年度初め)	年3回	都度	都度
経費	toto助成金	toto助成金	クラブ会計	町の総務課
その他	ワードで事務局が作成、印刷会社にて印刷	ワードで事務局が作成、印刷会社にて印刷	事務局作成(ワード利用)	掲載については、町の企画財政班と調整
工夫特徴	読み手を引き付けるような構成にしている。	両面、カラーのため読み手を引き付けやすい	各教室ごとに作成、インパクトがある写真を使い「会員募集中！」の文字を大きく使う	町の広報誌に組み込まれているため、地域住民、各世帯に伝わりやすい

【会員のサービス】

発行物名	赤べこ通信	お知らせ	キッズスポーツ通信
作成目的	毎月の活動内容や各教室の内容を知ってもらう	・各月のクラブの予定を知ってもらう ・興味を引き付け、参加者が増えるようPRも兼ねている	参加したことがない小学生や保護者の方、さらに学校の先生方に興味を持ってもらい、参加者の増員を狙う
掲載内容	・毎月の活動報告 ・各教室紹介	・翌月の予定表 ・翌月のお知らせ ・賛助会員の紹介	毎月の活動報告
配布対象	会員	会員	キッズスポーツ参加者
配布方法	手渡し (一部は郵送)	手渡し (一部は郵送)	手渡しもしくは小学校に配布を依頼
仕様	A4片面、モノクロ	A4片面、モノクロ	A4片面、モノクロ
発行頻度	毎月発行	毎月発行	毎月発行
経費	クラブ会計	クラブ会計	クラブ会計
その他	事務局作成(ワード利用)	事務局作成(エクセル利用)	事務局作成(ワード利用)
工夫特徴	写真を必ず載せて活動の様子が伝わりやすくする	翌月のカレンダー付で各日程がわかりやすい	子供向けなので写真がメインである

【区長文書】 町が指定する行政区の各区長宛の文書であり、毎月発行される。各地区ごとに分かれているので各世帯に配布したい各団体のチラシや回覧等もそれを利用し、配布。

各広報ツールは、様々な人や組織から賛同・支援をいただくために必要不可欠なものです。また、クラブからのお知らせや活動報告等も会員や地域住民に活動の様子が伝わりやすいので積極的に活用しています。そこに、クラブがPRしたい相手に対してわかりやすく上手に伝えられるよう活動の様子等がわかる写真を掲載しています。

なお、クラブでは、ホームページも開設しています。原稿は事務局で作成し、業者に更新を依頼しています。

3 工夫・特徴

事業報告として、毎月1回は必ず「赤べこ通信」を発行しています。「赤べこ通信」では、クラブでの活動やイベント開催の紹介を載せていますが、活動の様子がわかるように必ず写真を載せるようにしています。そのため、各行事等がある場合は事務局もその場へ出向き、会員の方の笑顔の写真やインパクトがある写真等、ベストショットを狙って写真を撮るようにしています。また、事務局も一緒に行事等に参加し、自分自身が体験したことや参加して得たことも交えて文章にしています。

その他にも、カラー印刷のものは、春ならばピンクなどの淡い色、秋なら紅葉を連想させる色といったように季節感を感じさせる色を使用したり、見出しは読み手の興味を引き付けるような、短くてインパクトが強い文言を使用するようにしています。

4 作成方法

各広報ツールはクラブマネジャー 1名が作成しています。なお、クラブマネジャー 1人で広報ツールの作成に加え、イベントの企画、会計まで全てのことを日常業務として行っています。自主財源が乏しく、もう1名スタッフを雇用することが難しいため、今後は理事の方や会員の方に協力要請をしたり、ボランティアスタッフを募集し、広報誌の配布、PR活動に協力してもらいたいと考えています。

5 地域住民への効果・影響

広報物を作成したことにより、活動地域でのクラブの知名度が上がり、クラブがどのような活動をしているのか、地域住民にも興味・関心を持っていただけるようになりました。

実際に広報物を見た方からは、生き生きと活動している様子が写真から伝わってくるという声などもいただいています。

6 リスクマネジメント

広報物作成にあたっては、以下の点に気をつけています。

- 経費節減：プリントミスをしないようにする。（町役場の印刷機をお借りしているため）
- 誤字脱字等対策：不備がないか他のクラブスタッフのチェックを受ける。
- 個人名の掲載：個人名を出す際は掲載の可否を確認する。
- 文字の大きさ等：なるべく文字を大きく、見やすくし年配の方々や子供達にも興味を持っていただけるようにしている。
- 配布漏れ対策：会員向けの広報は配布漏れがないよう、名簿を作成し最終確認する。

7 今後の課題、展望

今後は、地域住民の方を中心に多くの方にクラブに興味・関心を持っていただけるような文章・構成を考え、チラシのワンパターン化を防ぐために、他のクラブの広報ツール等も参考にしていきたいと考えています。そのためには、他のクラブとの連携を強化し情報交換等を積極的に行う必要があります。さらに他地域の方にも、クラブの知名度があがるような広報をしていきたいと考えています。

また、広報物作成にあたり、エクセルやワードをさらに使いこなせるような技術の向上も今後の課題です。

その他、広報紙の掲示やPR活動を積極的に依頼し協力してもらうためにも、学校や各施設との連携を強化することやクラブのイベントを多く企画することも広報の充実につながると考えています。

経費面では、現在は一部の広報物をtoto助成を受けて作成していますが、toto助成が終了した後の対応が課題です。広報物は、区長文書に載せるチラシ以外は、毎月各会員に手渡し、もしくは郵送しています。理想としては、毎回区長文書に掲載し、各世帯に渡るようにしたいと考えていますが、全世帯約1200枚分を印刷するとなるとインク代や用紙代等のコストが掛かるため、難しいのが現状です。来年度以降のクラブの体制を今後、理事会でしっかり協議する必要があると考えています。

(赤ベコトータルスポーツ クラブマネジャー 鈴木 里美)

クラブプロフィール

設立年月日：平成20年4月20日(平成28年1月19日法人登記)

所在地：福島県河沼郡柳津町

運営：会員数53名(平成28年10月現在)
予算規模897万円(平成28年度)

有給職員：1名

クラブ内資格保有者数：日本体育協会公認アシスタントマネジャー 1名

特徴：人口が3582人(平成28年10月1日現在)という小さな町ですが、B&G海洋センター体育館、B&G海洋センタープール、テニスコート、運動公園グラウンド等のスポーツ施設が充実しており、クラブの活動場所としても利用しています。また、「スポーツ振興の町」として従来から町がスポーツに力を入れてきましたが、少子高齢化や過疎化が進み、様々な問題を抱えているのが現状です。そのような環境の中で、「地域住民」を中心に、子供からお年寄りまで多世代の人がクラブを通じて友好の輪を広げ、楽しく体を動かしながら絆を深めることを目指して活動しています。クラブの名称にもなっている「赤ベコ」は、柳津町が発祥の特産品です。

■連絡先

郵便番号	969-7325		
住所	福島県河沼郡柳津町大字柳津字金谷沢乙1795番地 (柳津町B&G海洋センター内)		
TEL	0241-42-2246	FAX	0241-42-2546
Eメール	akabeko_total_sports@yahoo.co.jp		
ホームページ	http://www.aka-total2016.com/		

特集

会員や地域住民に向けた広報を行っているクラブ

NPO法人 川西スポーツクラブ
 <奈良県磯城郡川西町>

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、会員および地域住民に向けて積極的に情報を公開し、クラブの理念や活動状況を知ってもらう必要があります。

そこで今回は、会員や地域住民に向けて積極的に広報を行っているクラブを紹介します。

ここがポイント!

- ① 目的に応じて広報誌・リーフレット・ホームページなどを使い分け!
- ② 町とも連携し、自治体の広報に折り込んで全世帯に配布!
- ③ マラソン大会やテレビも活用して、クラブのアピールを!



1 クラブ概要

川西スポーツクラブは、平成15年度日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成支援指定クラブの委託事業を受け、体協役員やスポーツ指導委員によりクラブ設立の準備がスタートしました。しかし、市町村合併による施設使用の問題などにより、プレ教室として活動が始まったのは平成18年からです。その後、地域住民の参画で平成19年5月に「川西スポーツクラブ」が設立、平成23年1月にNPO法人格を取得、平成24年4月より川西町内にある7つの体育施設の指定管理者となりました。クラブの理念は(会員ひとりひとりが主役)「みんなで作る・みんなのクラブ」です。

2 5つの広報ツール

	月刊広報誌カワスポ 「たいむず」	リーフレット	ホームページ	Facebook	チラシ・ポスター
経緯と目的	町広報誌に折り込むことを町に承諾していただき、総合型クラブが生涯スポーツを担うことを広報	会員募集のため、また年度の記録として発行	急な教室事業の休講など、タイムリーに告知できること	日々の活動やイベントをいち早く配信	広報誌では申込書を紙面に掲載するスペースがないことから、個別に作成
内容	・クラブ紹介 ・カレンダー ・プログラム ・イベント情報 ・大会の結果 ・入会案内	年間教室事業・クラブ事業のプログラム紹介	・クラブ紹介 ・カレンダー ・プログラム ・イベント情報 ・大会の結果 ・入会案内	教室やクラブの活動内容紹介	イベント(ゴルフコンペなど)の告知と申込書が一緒になっており、非会員も参加できる案内
作成方法	広報部会で正会員が企画・編集・校正をして、事務局担当で作成 ※正会員10名が広報部会を担当	運営委員会で次年度の事業が決まり次第、事務局担当で作成	事務局担当が更新	正会員および教室指導者から活動内容を聞き、事務局から配信	イベント担当者が作成
活用方法	次回のイベント予告や、大会の報告として活用	クラブの啓発アイテム、年度の保存版	スマホから見られるので、急な教室の休講などの連絡として活用	会員のみならず他クラブへの情報発信としても活用	町内公共機関やスーパーなどにも置いて、広く募集
注意した点	特に画像や写真、名前の掲載に注意するとともに、配色や文字の大きさ・字体にも配慮				
良かった点	ネット検索が苦手な高齢者に好評	手元においてくれる	SNSとの連動やQRコードの活用ができる	タイムリーな情報発信ができる	イベントの詳細を記載できる
工夫した点	文字の大きさ、見やすさ	見やすさ、保存しやすい大きさ	教室・クラブの活動内容や指導者の情報などをわかりやすく掲載	記事を読んでいた方に反応していただけるよう工夫し掲載	目に留まるよう、目立つように工夫
経費	会員の年会費や協賛金などで予算立てを行い、コストを抑えて作成				

3 工夫・特徴

SNSでは正会員からいただいた活動内容の記事や写真を掲載、広報誌では大会等で活躍された会員をピックアップし掲載しています。他の内容は広報担当の正会員が意見を出し合い、掲載に繋げています。みんなのクラブですので、できるだけ皆さんの意見を尊重し広報活動をし、情報公開しています。

また、様々な方に周知するためにも、設立準備期に教育委員会が携わっていたつながりから、町広報誌へのクラブ広報誌折込に協力いただいたり、地元スーパーに勤務されている女性や自営業で商工会と繋がりのある男性にお願いし、町内の公共機関やスーパー等にもチラシ・ポスターを配置していただいたりと、地域の方にクラブを知っていただく取組を行っています。

4 作成方法

担当者は、広報部会のメンバーの意見をまとめ、また、的確にイベントや活動内容を掲載していきます。

広報誌はA3用紙の限られた範囲ですので、情報がたくさんあるほど難しくなります。見やすさや字の大きさ・読みやすさを考え、字体に変化をつけて掲載に繋げています。

HPやSNSは非常に便利なツールですが、写真の掲載等には気を付けています。写真は、個人のアップなどはNG。活動の全体写真や活動写真などを掲載し記事にしています。

5 地域住民への効果・影響

広報ツールを活用し、より多くの住民の方に「クラブが目指すもの」「クラブの近況」「事業の概要」「会員募集等」「お知らせ」などの情報を知ってもらうようにしています。

会員募集についてはクラブのパンフレット、イベントや大会の情報は開催チラシ・毎月の月刊誌などすべて、町との協働で広報誌に折り込んで川西町全世帯に配布しています。お陰様で「KAWA-SPO」といえば、川西町のスポーツクラブという認知度が高まっています。

以前川西町で行われたマラソン大会も、町内を走ることで活動を見ていただく大きな広報ツールの役割を果たしました。自治会の皆さんに立哨してもらったことでクラブの認知度もあがりました。またTVの広報ツールを活用することで、奈良県内でテレビに取り上げられたクラブとして、会員さんや地域の皆さんから「見ましたよ。うちのクラブが、テレビで映っていましたね」と声をかけていただく機会も増えました。

NPO法人になってからも、ホームページには事業報告や会計報告、次年度の事業計画や予算計画をのせることで、クリアなスポーツクラブであることを知っていただいています。

6 リスクマネジメント

イベントや大会など主催・後援の団体がある場合は、チラシなどに誤字脱字がないかをよく確かめています。また後援については、団体に対して文書による申請が必要かどうかを必ず確認します。個人同士の口約束は、団体にとってトラブルのもとになります。

また個人情報保護法ができてからは、クラブで活躍された人を掲載するときも個人情報について注意しています。入会時に写真や名前をクラブに帰属して掲載される旨の署名をいただいています。再度、個人情報を掲載することの可否を確認した上で掲載しています。ホームページでは、大会やイベントの写真を見もらう会員専用のページも設けています。

7 今後の課題、展望

課題は、クラブの広報を会員のみならず地域や県全体に発信していくことだと思います。そうしていくことで、会員数の増加や事業の拡大に繋がるのではないかと考えています。当クラブの地域では住民数が限られていますので、地域外の会員も増やしていきたいと考えています。

また、メディア等に取り上げていただくことで、総合型地域スポーツクラブがより多くの方に知っていただくとともに利用していただきコミュニケーションの場を増やし、体力向上・健康増進に繋げていきたいと考えています。

何事も継続していくことが重要であると思っていますので、今後も広報活動に力を入れていきたいと考えています。

(川西スポーツクラブ クラブマネジャー 白馬 龍毅)
(奈良県クラブアドバイザー 川崎 香織)

クラブプロフィール

設立年月日：平成19年5月6日(平成23年1月18日法人登記)

所在地：奈良県磯城郡川西町地区

運営：会員数：730名(平成28年10月現在)
予算規模：2,496万円(平成28年度)

有給職員：3名

クラブ内資格：日体協公認クラブマネジャー 3名

保有者数 日体協公認アシスタントマネジャー 6名

日体協公認競技別指導者資格5名

日体協公認フィットネス指導者資格1名

日体協公認ジュニアスポーツ指導員資格2名

日体協公認スポーツプログラマー指導員資格2名

特徴：クラブが設立して平成28年5月で満9年となりました。「初心に帰る」いつも謙虚な気持ちをもって、幼児から高齢者まで地域住民の皆さんが明るい社会生活をおくることができるようにスポーツを通してコミュニティの場所を提供しています。クラブ理念は「みんなで作る・みんなのクラブ」です。みんなで居場所づくり・みんなで仲間づくりを大切にしています。正会員は45名おり、指導者の方も正会員としてクラブのため色々な意見を出していただき、より良い事業を企画しています。また、30名の方がボランティア賛助会員としてイベントや大会に役員として参加していただいています。みんなで作る・みんなのクラブが川西スポーツクラブです。

■連絡先

郵便番号	636-0202
住所	奈良県磯城郡川西町結崎1287-1
TEL	0745-44-1616
FAX	0745-44-1616
Eメール	ma63aw58ml@kcn.jp
ホームページ	http://kawaspo.org/

特集

クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブ

多寄スポーツクラブ ＜北海道士別市多寄町＞

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブ運営側の努力に加えて、地域住民が自ら「こうしたらいんじゃないか」と発言し、活動に参加していけるような組織であることが重要です。

そこで今回は、クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① 「多世代交流」を目的にイベントの内容を変更し、参加人数が増加!
- ② 体育協会との表裏一体の組織運営で互いを補完することで、多くの住民が支援!
- ③ 横断的に人を集め、コミュニティ間の交流を促すことで地域課題を解決!

1 クラブ概要

多寄スポーツクラブ(以下、多寄SC)のある士別市多寄町は北海道北部に位置する農村です。夏は暑く、冬は寒い、一年の温度差が60度にもなる地域で、主産業はズバリ! 農業です。住民も、農家・元農家・農協職員・土地改良区職員など農業関係者がほとんどを占めています。

士別市は最後の屯田兵村の一つです。多寄町では1900年に入植がはじまり、1909年に多寄村が発足しました。1954年、一町三村が合併し士別市が誕生。その二年後の1956年に多寄町体育協会が設立されました。その後1975年に多寄町民体育大会(後に町民フェスティバルに改称)が始まりました。多寄町はその誕生当初からスポーツが盛んな地域でした。

こうした背景のもと、1997年に総合型SCの育成モデル地区の指定を受け、多寄SC協議会が設立されました。当時の多寄町体育協会会長である山崎前会長の掛け声のもと、町民一同一致団結。石川事務局長や佐々木現会長らが中心となって事業を立ち上げました。当時は少ない事例の中、手探りで活動していました。その後、試行錯誤もありながら、士別市体育協会・多寄町体育協会の支援もあり、2000年に多寄SCを発足。時を同じくして、自分たちの手で40㎡のクラブハウスを建設しました。

多寄SCは当初より「多世代交流」を目的に活動しています。例として町民フェスティバル(町民体育大会)を挙げます。通算で42回の歴史を重ねている大会です。そして、今までに大きな変更が二度行われました。

一つ目は、12年前の30回大会の時に名称を変更したことです。もともとは体育大会という名の通り、競技性の強い種目が多く、一日かけて本気で競い合うような内容でしたが、高齢者

人口が増える中、参加者が減ってきていました。そこで大会の目的を「交流」へシフトしました。名称も町民体育大会から町民フェスティバルに変更し、午前中で終わるようにしました。

二つ目が多寄保育園との合同開催です。多寄町には保育園があり、現在10名前後の園児が登園しています。6年ほど前から園児たちのお遊戯や徒競走などもフェスティバルの中で行うことにしました。それにより、今まであまり来ていなかった20~40代の親世代が来るようになり、孫の活躍する姿を見に祖父母の代も来るようになり、また普段子供と接する機会のない方々も子供たちを見られるようになりました。

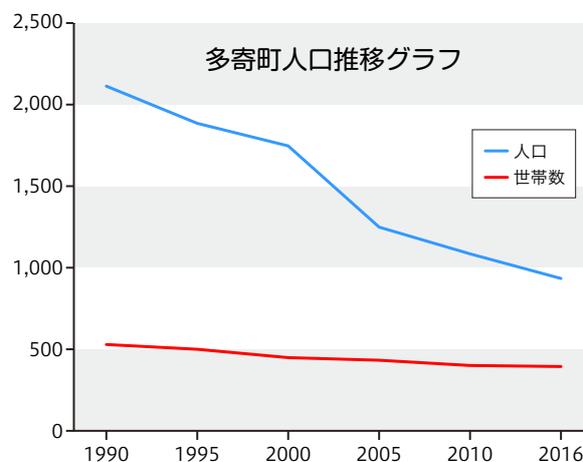


2

地域住民がクラブ運営に 参画するようになった経緯・内容

多寄SCができた当時、多寄町の人口は1,433人、世帯数は472戸でした(平成13年現在)。現在人口が936人、世帯数400戸です。また、会員数は現在一般・少年団合わせて239人(平成28年度現在)。人口の約4分の1が会員ということになります。世帯数がさほど減っていないことが、独居世帯の増加を示しています。日本全体で人口減少が続いている中、町内の人口が減っていくことは避けられないこと。では、いかに減少を和らげそのショックを減らすかがポイントであると考えています。

人口減少によって何が問題となるかという点、「1.社会的な孤立：精神的身体的な健康状態の喪失、2.社会関係資本の減少：機械や労働の貸し借り、産業の発展に不可欠、3.社会的伝統の喪失：神輿・盆踊り・雪祭りなど」が考えられます。それぞれ農村社会の存続に不可欠なものです。それをいかに維持しながら軟着陸させるかが、地域スポーツクラブが果たせる地域貢献の一つだと思います。



3

地域住民に参画していただくための工夫等

多寄町はもともとスポーツが盛んな地域です。それは例えば、多寄町体育協会は士別市ができた頃と同時期に設立されており、すでに60年以上の歴史があるところからも読み取れます。現在、体育協会へ自治会費を通してほぼ全戸から会費をいただいております、『オール多寄』で支援している状況にあります。全ての住民がなんらかの形で多寄SCや体育協会とかかわっていて、もはや自治会と同レベルで見られています。

多寄町体育協会はスポーツの普及、多寄SCは多世代交流をそれぞれ目的としており、互いに補完関係にあります。役員も半数以上重複しており、まさに表裏一体の組織運営がされています。この役員ですが、スポーツクラブで41人、体育協会37人と、その規模からずいぶん人数がいるように思えるかもしれませんがその内29人が重複しています。そのうえ、農家と非農家のバランスを考えて構成されており、相互のコミュニケーションの促進が図られています。

また、自治会会長や小中学校の校長等もメンバーとなっています。スポーツは職業や経営に左右されないきわめてニュートラルな存在なので、垣根を越えて情報交換ができるツールとして最適です。

また、事務局長が自宅横の古い住宅を、バーベキューも楽しめるスペースに改装しました。町民が徒歩で移動できる場所に第二のクラブハウスができたようなものです。そこで会議や食事会もできます。最近、事務局長手づくりのピザ釜も完成し、多寄町住民のサロンとして交流を促進しています。



4 他の地域住民への効果・影響等

例えば、クラブに参加していることで健康増進や競技力の向上につながることもあると思います。しかし、一番重要なのは多世代交流を通じて、先ほどあげた三つの課題の解決に貢献しているということです。現役世代を見てみると、同じ地域に住んでいても、実はなかなか交流する機会が少なかったりします。各々のコミュニティ、例えば農協や農事組合、作目別部会などでの交流はあるものの、世代の違いなどもあり接点がないとなかなかコミュニケーションが難しいこともあります。また、外に出る機会をつくることで、独居世帯が増え、高齢者の孤立が心配される現状下、住民同士の会話が健康管理にも繋がります。

多寄SCは多寄地域において、横断的に人を集め、コミュニティ間の交流を促し、そのつながりを深める役割を果たしています。

5 運営スタッフ募集の際のリスクマネジメント

多寄SCは、現在有給の専属スタッフを雇用しておらず、すべて住民によるボランティアによって支えられています。したがって、どのような方がスタッフとして参加されても対応できるよう、マニュアルが作成されています。例えば町民フェスティバルでは細かな配置図が描かれており、対応が容易になっています。

6 今後の課題・展望

人口が急速に減少していく中、クラブとして地域にどういった貢献ができるのか。非常にチャレンジングな問いであると思います。多寄SCの強みは地域に特化していることだと考えていますが、同時に人口が減少していく中で、現状の取り組みを維持していくことは難しいと思います。

また現在、士別市からの助成を受けていますが、どこの自治体も財政状況が厳しい中、いつまでも助成が続くとは限りません。したがって、自主財源を得て経営を安定化し、いかにサービスの質を下げずに行うことかが、ますます求められるようになります。

具体的には法人化と指定管理で安定的に収益を安定化させること、そして町外の会員を増やしていくことの二点を目指しています。組織運営については、町のボランティアスタッフを中心にしつつも、有給スタッフを導入していき、さらに、会員が全て農業関係者であることを活かし、スポーツと農業の接点を探してビジネスに発展させられたら面白いと思います。

(多寄スポーツクラブ クラブマネジャー 谷 寿彰)

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成12年4月1日

所在地 : 北海道士別市多寄町

運営 : 会員数 : 239名 (平成28年4月現在)
予算規模 : 90万円 (平成28年度)

有給職員 : 0名

クラブ内資格 : 日体協公認クラブマネジャー 1名

保有者数 : 日体協公認アシスタントマネジャー 2名

特徴 : 多寄スポーツクラブは稲作の北限にほど近い北海道士別市多寄町に位置しています。日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成モデル地区事業指定を受けて、平成9年10月22日にクラブ育成協議会が設立され、平成12年4月に多寄スポーツクラブを設立しました。「多世代交流」を目的として活動しており、町民手作りのクラブ運営を進めています。

【事業内容】

- 町民フェスティバル
- 町民パークゴルフ交流大会
- 札幌ドーム視察研修
- 町民健康教室
- 筋肉番付インたよろ
- 町民ミニバレー大会
- 町民卓球大会
- 町民スキー教室&大会
- 生涯スポーツ全国会議派遣

クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブ

おおくすクラブ (東みよし町総合型地域スポーツクラブ) 〈徳島県三好郡東みよし町〉

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブ運営側の努力に加えて、地域住民が自ら「こうしたらいいんじゃないか」と発言し、活動に参加していけるような組織であることが重要です。

そこで今回は、クラブ運営に地域住民が主体的に参画しているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① 誰でも参加できる地域の大イベント「スポーツフェスティバル」を開催!
- ② 会員・行政・学校などすべての関係者に働きかけ、協力を得る!
- ③ イベント後の振り返り、スタッフ専用ホームページなどで情報を共有し意識統一!



1 クラブ概要

文部科学省の施策を受け、町教育委員会生涯学習課が設立準備委員会及び運営委員会を発足させ、設立に向け各種事業を展開する中、クラブの運営を地域住民の手で行っていかうと、当時、町内で活動していた女性バレーボールチームのメンバーが設立準備委員会に参画することとなりました。以降、設立までの間「総合型地域スポーツクラブとは？」というところから勉強を始め、行政と連携し、何度も協議を重ねていきました。

設立の半年前には、地域の保護者から要望を受け、その女性バレーボールチームのメンバーが指導者となり、キッズスポーツ教室（やまももクラブ）が誕生しました。「子ども達の運動嫌いをなくそう!」「行政・学校・家庭・地域が協働し、地域の大切な子ども達を健全に育てよう!」そんな熱い思いで活動をスタートさせました。

設立にあたり、成人対象教室については、既に地域で個々に指導されていた講師の皆様「総合型地域スポーツクラブ」の理念、地域の住民による住民のための活動であることを理解していただき、4教室を立ち上げました。子ども対象教室は、キッズスポーツ教室（やまももクラブ）と少年野球教室の2教室から始めました。スポーツ少年団として、長く活動を続けていた少年野球教室の指導者・保護者の方にも「総合型地域スポーツクラブ」の趣旨に賛同していただきました。

町内にある国の天然記念物「加茂の大クス」は、樹齢千余年、大地に根を張り大空に幹を伸ばしています。我がクラブも、誰もが参加でき自主的に運営・楽しく元気な交流の場を作ること、心身共に健康になれることを目的とし、地域に根を張った活動を続けたいと、「おおくすクラブ」と名付けました。

各教室から運営委員を選出し、定期的に運営委員会を開催し、活動に対する要望や提案をいただきながら、クラブの理念や方向性を確認してきました。事務局もほぼ全ての教室を訪問し、指導者や会員との交流を図り、常に情報発信・収集に努めています。

新規教室開設についても、常に会員のニーズを把握し、「昼夜の時間帯を選べる教室」「初心者対象教室」「文化教室」「季節限定教室」「サークル型教室」「ニュースポーツ教室」等、様々な形態の教室を開設してきました。

設立後は、総合型地域スポーツクラブ自立支援事業を5年間受け、活動の基盤を作り、現在は自主財源と町補助金のみで運営しています。



2 地域住民がクラブ運営に参画するようになった経緯・内容

町の人口は約15,000人。クラブは7年目を迎えた現在、15教室・約340名の会員が活動しています。

運営スタッフは、キッズスポーツ教室（やまももクラブ）指導者を中心に約30名。多種多様な職種・年代の方が携わっています。また、会員や運営委員は「自分たちの教室は自分たちで盛り上げよう!」という気持ちが強く、積極的に様々な行事に参加し、事務局をサポートしてくれます。

クラブでは、年に1度「スポーツフェスティバル」を開催しています。クラブの一大イベントで

あり、教室間の交流や異世代間の交流、また、地域への広報活動を目的とし、参加者は約200名。たくさん風船で飾られた会場で、紅白に分かれてのミニ運動会や、お楽しみ抽選会、教室の活動発表など、誰もが笑顔で過ごす、おおくすクラブの一体感を感じることのできる有意義な一日です。

この運営には、会員・保護者・運営委員とともに前日準備から後片付けまで、多くの町職員・町内幼小中学校教職員なども運営スタッフとして関わっています。地域のみなさんと繋がり、交流を深めることは、それぞれの仕事にも役立っています。

「スポーツフェスティバル」は、会員だけでなく会員の家族・知り合いなど、どなたでも参加できます。フェスティバルに参加して新規入会したり、他の教室の活動に参加したりと交流が広がっています。また、運営スタッフの苦労も理解していただき、「少しでもお手伝いを」という気持ちの方が増えています。終了後の運営委員の感想に、「スタッフのみなさんの大変さが、身にしみて分かりました」「道具・賞品の準備・アトラクションの手順等、用意周到。スタッフの方に敬服・感謝いたします」「スタッフの皆様の力で、楽しい一日を送ることができ、ありがとうございました」「本当にお疲れ様でした。スタッフの皆様の頑張りに負けないよう、練習を頑張ります」など、スタッフのモチベーションを上げる言葉をたくさんいただきました。感謝の心がつながり、好循環を生んでいるのだと思います。



3 地域住民に参画していただくための工夫等

おおくすクラブには、設立当初から専任で経営・運営に携わっている者はおらず、それぞれの仕事を持ちながらクラブ運営を行っています。会員のみなさんがこの現状を把握し、熱心に活動し、時には運営のサポートもしてくれるようになりました。

また、行政の理解・協力もあり、町職員にクラブのボランティアスタッフとしての参加を勧められています。

クラブとしても、毎年、町内の保育所・幼稚園・小中学校関係者・保護者を対象に、子育てをテーマにした講習会などを開催し、活動への理解と連携・協力を求めています。このような取り組みの中で興味を持ち、趣旨に賛同し、スタッフとして参加してくれることもあります。

その他、保育所や幼稚園・小学校から運動指導の依頼を受けることも多く、それを機にクラブへの関心も深まっています。

広報活動についても、クラブホームページの運営やおおくすクラブ通信の発行（年3回：全会員へ配布及び町内幼・小中学校へ配布・町役場・公民館等に掲示）・町広報誌への記事掲載など、地域への情報発信を積極的に行っています。

4 運営スタッフ間の意識統一のための工夫等

クラブは、常に運営スタッフを募集しています。性別・年齢に関係なく、幅広く人材情報を入手すべく動いています。

まずは、クラブの理念を十分に理解してもらうこと。「参加することで自分自身のためになる!」と考えられること。参加していく中で、運営方法や人とのコミュニケーションを学び、やりがいを得るまでには時間がかかります。スタッフの勉強会なども定期的に行い、意識を高めます。

スポーツフェスティバルなどの大きなイベントの際には、2か月ほど前から準備をはじめ、何度も打ち合わせを重ね、当日を迎えます。会員の皆さんの感謝の笑顔がスタッフの報酬、達成感となります。しかし、なかなか続けられるものではありません。仕事を持ちながらもボランティアとして関わり協力してくれている現在の運営スタッフは、クラブの大きな財産です。

少しでも良いイベントにするために、スタッフはイベント後に「振り返り」をしています。良かったことや次回開催時に改善したら良いことなど、どんな小さな気づきも、スタッフ全員で共有し、次回開催時に共通理解を図ります。前例踏襲ではなく、常にベストな運営を目指しています。

また、スタッフ同士の情報交換の場としてホームページ上にスタッフページを設けています。このページには、活動への出欠入力・イベントの情報等を掲載しています。情報を共有することで、スタッフ間の意識統一が図れています。

5 今後の課題・展望

現在、クラブは、行政や学校・地域住民の協力を得て、順調に活動を続けています。理念を理解し、運営に携わってくれるスタッフも増え、会員も積極的に活動に参加しています。地道な活動を続ける中で、大きな信頼と絆でクラブがまとまっていることを感じています。

クラブに専任で関わる運営スタッフがないことは課題のひとつですが、それゆえに各教室の運営委員や会員の結束が固いことも事実であり、今後は個々の教室の自立運営を目指し、確立していくことで課題は解決できます。

「住民による住民のための活動!」

おおくすクラブは、原点を忘れず、これからも活動を続けていきたいと考えています。

(おおくすクラブ クラブマネジャー 國安 恵)
事務局 宮内 美和)

クラブプロフィール

設立年月日：平成22年3月7日

所在地：徳島県三好郡東みよし町

運営：会員数：338名(平成28年12月現在)
予算規模：390万円(平成28年度)

有給職員：0名

特徴：「おおくすクラブ」は、楽しく元気な交流の場をつくることを目的とし、心身共に健康になれるよう活動しています。運営スタッフは、全員、他の仕事を持ちながら熱心にクラブ運営に携わっています。指導者や会員、またスタッフ間の絆も月日を重ねるごとに深まり、「共にクラブを支え、盛り上げよう」と、日々の活動に取り組んでいます。登録料についても設立当初から変わらず、月額1,000円を納めるとどの教室にも追加費用なしで参加できるシステムで、クラブ内の様々な教室に参加する方が増え、会員同士の交流も図られています。行政の理解と協力もあり、学校や地域との交流も活発に行われるようになりました。

■連絡先

郵便番号	771-2501
住所	徳島県三好郡東みよし町昼間3697-1番地 東みよし町教育委員会生涯学習課内
TEL	0883-79-3217
FAX	0883-79-5060
Eメール	miyauchi-m4@mkknet.jp
ホームページ	http://ookusu.co/

行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブ

【チャグチャグスポーツクラブ】 ＜岩手県滝沢市＞

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、地域のコミュニティと密接に関わっている行政や教育機関、学校の部活動とよいコミュニケーションを築くことが重要です。

そこで今回は、地域の行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブを紹介します。

ここがポイント!

- ① クラブ（体育協会）・保護者・テニス協会が熱意を持って団結し、学校との連携に至る!
- ② 初期の会員が指導者としてクラブへ戻ってくるなど、好循環が生まれている!
- ③ クラブの存在が、部活動を取り巻く諸問題の解決策としても機能!



1 クラブ概要

チャグチャグスポーツクラブのある滝沢市は、盛岡市の北西部に位置し、県庁所在地である盛岡市中心部から8kmの距離にあるベッドタウンです。平成12年2月には人口50,000人(当時)を達成し、日本一の人口を有する村となりました。また平成26年1月には市制施行となりました。

クラブ名に使用している『チャグチャグ』は、毎年6月の第2土曜日に行われる『チャグチャグ馬コ』からいただきました。このお祭りは農耕馬に感謝する200年に及ぶ伝統行事で、100頭ほどの馬が市内の蒼前神社から盛岡市内の八幡宮までの13kmを行進します。馬に設えたあでやかな装飾とたくさんの鈴が特徴で、歩くたびにチャグチャグとなる鈴の音が名称の由来といわれています。

クラブの掲げる理念は、全てのスポーツの原点は『遊び』であり、小中学生の会員はこの原点をスタートに協調性や社会性を育むこと、高校生以上の会員は生涯を通してスポーツに親しむことで明るい社会を創造することです。

2 行政・教育機関・学校部活動と連携するようになった経緯と具体的な取り組み

当クラブの特徴として、体育協会がクラブ設立から現在の運営に至るまでを行っていることが挙げられます。

実際のクラブ立ち上げまでの経緯は、平成7年度に行った種目別協会代表者会議の席上で、協会員の高齢化への対応及び現役選手の発掘をすることの2点が課題として浮き彫りになったことにあります。体育協会としてこの課題に対応するため、翌年度から『選手育成推進事業』を4年間実施、さらに将来の総合型クラブ発足を見据えて『スポーツクラブ育成推進事業』を2年間実施し、総合型クラブ設立に向けた基礎作りを行いました。このような経緯を経て、平成14年4月16日開催の設立総会において「たきざわチャグチャグスポーツクラブ」(名称当時)として発足しました。

クラブ立ち上げ当初、硬式テニスは小学生を対象にスタートしました。活動を継続する中で、上達する会員が増えるとともに大会で入賞する会員も増え、自分たちが中学進学後に競技を継続することができるのか、不安な思いがあったようです。その思いを受けた有志の保護者数人が、中学校に硬式テニス部新設の働きかけを行いました。学校側からは全く聞き入れてもらえませんでした。

そこで、日々指導に携わっていた市テニス協会の菊池会長に対して相談を行いました。菊池会長は方策を考えた結果、クラブ(体育協会)へ申し入れを行い、保護者、クラブ(体育協会)及びテニス協会が合同で取り組みを行なうことになりました。

最初の取り組みとしては、当時の教育長から総合型クラブについての理解を得た上で、学校からの理解を得ることでした。そこで、市内小中学校長が一堂に会する学校長会議への参加を認めてもらうために教育委員会との協議を重ねました。その際、幸運にも当時の教育長は行政職の経験者であり、スポーツ振興計画に造詣が深かったことが有利に働きました。会議では総合型の意義や必要性について熱く説明することができましたが、当時の総合型クラブの認知度は現在と比べてはるかに低く、校長先生からは懐疑的な意見も多く出されました。また、後日談ですが学校現場においても新規に部活動を増やすことによる教員の負担増加を懸念する声も多かったそうです。

このような状況下で不安を抱えながら中学校を訪問したのですが、そこでも幸運に恵まれ

ました。それは、訪問の直前に赴任して来られた校長先生が、前任地の中学校において校外型部活動を設立した実績をお持ちの方だったことです。これによって中学校側とは積極的な意見交換を交わすことができ、協議がスムーズに進みました。

また、この中学校はバスケットボールや剣道などにおいて外部指導者が多く活躍している歴史的な土壌があったことも連携する上で有利に働きました。このように多くの幸運に恵まれ、校外型部活動『チャグチャグスポーツクラブ滝二中硬式テニス部』(名称当時)として平成15年4月からスタートすることができました。

3 連携内容

硬式テニス部設立において学校側が示した条件は、学校の敷地から離れて行う活動のため、保護者とクラブ(体育協会)双方からバックアップすることを求められました。そこで、父母会を組織し保護者が主体的に当番表の作成に携わり日々の活動をサポートしました。

さて、いざ硬式テニスをスタートしたものの、中学生への指導は初めてのことで毎日が試行錯誤の連続でした。技術指導面を市テニス協会菊池会長が1人で担い、保護者の方々がボール拾い等をサポートしていましたが、菊池前会長が仕事の都合でどうしても活動に間に合わない時は、同じく保護者のサポートのもとキャプテンを中心に練習メニューをこなしていました。このように指導者と保護者の距離が近いことから、臨時的にテニス経験を持つ保護者にコーチをお願いすることもありました。しかし、継続的に指導を依頼するまでには至らず、菊池前会長を中心とした少人数指導の期間が長くありました。

現在では、主管する市テニス協会からの十分なバックアップと併せて、会員OBやOGが指導者として活躍している事例もあり人的な循環が生まれております。

また、学校の敷地から離れて行う活動のため、生徒間に「サボれる部活」との認識が広がってしまいました。この問題に対応するため当人と保護者及び学校、指導者、場合によりクラブ(体育協会)が面談を重ね、指導者の人数を平均2人態勢にする、少人数で35人の生徒を指導する方法を指導者が学ぶなどし、徐々に解決することができました。



4 連携したことによる クラブや連携機関・団体への効果・影響

設立2年目からは学校側の配慮で担当の先生を配置していただき、校内での部集会等をメインに担当してもらい、設立3年目以降は活動費が支給されています。

外部指導者、学校長他教員、PTA役員等をメンバーとするサポーター交流会を情報交換の場として定例化しています。その中で、顧問の教員の方から「外部指導者と積極的な意見交換をすることができる機会が得られ、大変有り難い」との感想を聞くことができました。

5 今後の課題・展望

平成22年度より、学校部活動にはない種目でも週3日以上を外部で活動する生徒に対し、中学校として『校外活動部』として認めることになりました。そして、東北大会などにおいては、団体戦へ出場するために教員の帯同が必須でしたが、学校の配慮で派遣していただきました。

また、硬式テニスを設立した初期の会員が、高校、大学とテニスを継続し、社会人になってからも市内の大会に参加しながらクラブ指導者としてかかわる事例も見られ、指導者の好循環が生まれてきています。このことは他の種目へも波及し、指導者同士が切磋琢磨する動機付けとなっています。

現在、硬式テニスの他にもバドミントンやラグビーなど計5種目において市内中学校との連携を確立しています。教員が活動経験のない部活動顧問を引き受けざるを得ない現状や部活顧問の長時間過密勤務の解消など、中学校部活動を取り巻く諸課題を解決する存在として、総合型クラブが担うべき役割は益々大きくなっていくと思います。

(公益財団法人滝沢市体育協会 千葉 貴志)

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成14年4月16日

所在地 : 岩手県滝沢市

運営 : 会員数 : 503名 (平成29年2月現在)
予算規模 : 8,469,000円 (平成28年度)

有給職員 : 1名

クラブ内資格 : 日体協公認アシスタントマネジャー 3名

保有者数 : 日体協公認競技別指導者資格11名

クラブ運営 : 公益財団法人滝沢市体育協会

実施種目数 : 17種類

指導体制 : 滝沢市体育協会加盟種目別協会指導者等

年会費 : 5,000円 (家族内2人目から3,000円) で複数種目の選択が可能

■ 連絡先

郵便番号	020-0655		
住所	岩手県滝沢市鶴飼御庭田1番地1		
TEL	019-687-3637	FAX	019-687-3346
Eメール	chaguspo@taikyou.or.jp		
ホームページ	http://www.taikyou.or.jp/chaguspo/index.html		

行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブ

「さけがわ友遊C' Love」 〈山形県最上郡鮭川村〉

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、地域のコミュニティと密接に関わっている行政や教育機関、学校の部活動とよいコミュニケーションを築くことが重要です。

そこで今回は、地域の行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブを紹介します。

👉 ここがポイント!

- ① スポ少・部活動の事務手続き等を受け持つことで、スムーズな連携が達成!
- ② スポーツのみならず、地域の伝統文化の継承も!
- ③ クラブの自主事業に各団体の人財・財源が加わり、Win-Winの協働関係に!



1 クラブ概要

地域住民の健康・体力向上、多世代交流による地域コミュニティの活性化を図ることを目的として、平成20年、村体育協会を中心に、体育指導委員や村内各種団体の代表によって設立準備委員会を発足しました。準備段階から生涯スポーツ担当課、健康福祉課職員も準備委員として参画いただき、地域住民、各種団体と連携を図りながら準備を進め、『心と身体健康づくり』『仲間づくり』『地域づくり』の3つの柱を理念に、平成22年『鮭川村総合型地域スポーツ文化クラブ さげがわ友遊C' Love (ゆうゆうクラブ)』設立に至りました。

「運動は苦手」という理由で設立に距離を置いていた地域住民の声を反映させ、クラブ名に「文化」を取り入れた経緯もあり、設立後は文化活動の展開にも力を入れ、地域住民のみなさんが参加できるよう様々なプログラムの提供を行っています。

サークル
(5種目)

ジュニア
スクール
(8種目)

スクール
(5種目)

イベント
(16種目)

健康づくり
事業
(17種目)

共催事業
(7事業)

2 連携内容

現在、スポーツ少年団(以下 スポ少)、中学校部活動(文化部含む)、小・中学校、村体育協会加盟団体、村文化団体、教育課、健康福祉課、むらづくり推進課、地域おこし協力隊、観光協会、自然保護委員会等、様々な団体や機関と連携しながら事業を行っています。

■ スポ少・中学校部活動

クラブ設立時に村内のすべてのスポ少や部活動に、設立の趣旨を説明しながら課題の聞き取りを行っていました。共通していたのが、指導者の確保や事務的な業務が保護者にとって大きな負担になっていることでした。その課題解決として、各団体の施設の申請や調整、傷害保険加入手続・事故受付、指導者の派遣をクラブが行うことを提案し、現在ではみなさんが会員となってクラブのイベントにも参加していただいています。

■ 小学校

教育委員会で実施している「放課後子ども教室」へのプログラム提供の依頼があり、クラブで行っていたプログラムをクラブスタッフが出向いて実施しています。今年度は、巨大英語かるた大会を実施しました。体育館全面にかかるたを拡げ、読み手を村内に配属されているALTに依頼し、遊びながら単語を習得し、正確な発音を聴く機会になっています。

また、運動会や陸上大会前に「陸上教室」、水泳授業が始まる前には「水泳教室」、スキー大会前には「スキー教室」を開催し、クラブスタッフの競技専門者が指導を行っています。参加児童の保護者からは、「走ることに意欲的になった」「プール授業が始まる前に泳げるようになった」「スキーが滑れるようになった」と好評で、保護者にもクラブの存在をアピールできる活動につながっています。中でも水泳教室では、学校の先生に指導方法の勉強を兼ねて参加していただき、指導の幅を広げる結果にもなっています。



■ 文化団体

長い歴史を持つ鮭川歌舞伎に興味を持っていただこうと、いままで開催したことなかった『歌舞伎入門講座』を鮭川村歌舞伎保存会に依頼し、保存会の皆さまに協力いただき開催しました。地域の若年層に知ってもらおうとの取り組みでしたが、これをきっかけに定期公演会のスタッフとしてクラブが携わることとなり、今後は歌舞伎役者として継承につながればと思います。



また、地域に昔から伝わる唄と踊り(羽根沢節保存会)の伝承を目的に毎年行っていたお祭りが、スタッフの高齢化、人手不足により開催が難しくなってきたため、当クラブが開催している夏まつりと融合し、若い世代の皆さんにお披露目する機会となりました。

■ 健康福祉課

以前は、健康福祉課にて実施していた「健康づくり」メニューが地域住民にとって唯一の運動・体操を指導してもらう機会でしたが、単発開催や短期間であったため、年間を通して開催してもらいたいとの要望がありました。クラブ設立後にその受け皿を担い、クラブのインストラクターが教室の指導をすることによって、地域住民の要望に応えることが可能となりました。翌年には「鮭川村健康づくり委託事業」として以降毎年実施しています。(H28:委託金600千円)

また、車移動のできない高齢者向けに各地区への出前教室を提案し、現在では委託事業の他に、高齢者介護事業、介護予防事業、地区サロン事業など、村内各地区に出向いて実施しております。(H28:合計67回、謝金単価1回7千円)

■ むらづくり推進課

村が実施している農都交流事業にて、冬のイベントでの受け入れの依頼があり、クラブが毎年開催している「雪まつり」への参加を提案しました。当日は雪ランタン、雪像作りを体験していただき、併せてまつりの運営をお手伝いしていただきました。(受入事業費123千円)



■ 地域おこし協力隊

鮭川村では現在3名の地域おこし協力隊が配属されています。当クラブのイベント参加をきっかけに連携するようになり、クラブスタッフと同様に企画・運営に携わっています。地域おこし協力隊は、地域に密着した様々な取り組みや村内外に向けた情報発信をしており、専門的なスキルや多世代とのつながりもあるため、クラブには欠かせない存在となっています。今年度は15の事業にて連携・協働しています。



■ 観光協会

クラブでは地域住民を対象に、村内の巨木や名所を巡る事業を実施していましたが、村観光協会では他市町村や県外からの参加者を対象に巨木トレッキングを行っていました。両者間で検討し、経費を抑えて開催できるクラブ側が業務委託として請ける形で一本化となりました。(H28委託費70千円)

それを機にクラブのイベントを観光協会が村外・県外に広報していただくようになり、集客につながっています。また、クラブのイベントで地元温泉を活用する際に、宿泊補助や温泉入浴割引も受けられ、参加者にとって大きなメリットとなっています。

3 連携したことによる クラブや連携機関・団体への効果・影響

クラブが各団体と連携することで、クラブにとっても連携先にとっても良い影響をもたらしています。スポ少・部活動との連携では単に保護者の負担が軽減されただけではなく、クラブが調整を行っているため、行政の体育施設の受付業務においても事務量の大幅な軽減につながっています。健康福祉課との連携では、連携する以前は職員がメニューを考え、指導者や会場を手配した上で当日の運営もしなければならなかったのが、行政がクラブに委託したことによってその業務がなくなり、それ以外の業務に手厚く従事できることにつながっています。いずれも連携した結果が行政にとっては業務の軽減につながり、クラブにとっては財源確保や、会員拡大に及んでいます。

むらづくり推進課、地域おこし協力隊、観光協会との連携においては、クラブとして新たな事業を展開したわけではなく、いままで行っていた自主事業を協働する形で、人財・財源が加わりました。何一つお互いにとってデメリットがない連携事業が、地域住民にとっても、自分に合ったメニューの選択が可能となって習慣的な運動が定着しています。地域住民の課題解決、地域コミュニティの活性化という効果にも結びついています。

4 今後の課題・展望

新年度は商工会や地元企業との連携を進めていくと共に、引き続き地域住民の声に耳を傾け、課題解決に向けた新たな事業を展開していきたいと思えます。連携は相乗効果を生み、連携によって更なる大きな課題解決、クラブの拡大、よりよい地域づくりにつながっています。
『連携=相乗効果』

(さけがわ友遊C'Love 阿部 諭)

クラブプロフィール

設立年月日：平成22年2月28日

所在地：山形県最上郡鮭川村

運営：会員数：302名(平成29年2月現在)
予算規模：932万円(平成28年度)

有給職員：2名

クラブ内資格：日体協公認アシスタントマネジャー 6名

保有者数 日体協公認競技別指導者資格3名

特徴：クラブが活動している鮭川村は、山形県の内陸北部に位置しています。人口は4,400人、三世帯同居率は日本一、村の中心を一級河川「鮭川」が流れる自然豊かで小さな農山村です。さけがわ友遊C'Loveでは運動プログラムのみならず、その豊かな自然を活用し、文化的要素も取り入れた観光事業や、多世代による交流事業など幅広く事業展開しています。

■連絡先

郵便番号	999-5201
住所	山形県最上郡鮭川村大字京塚1324-2 鮭川村中央公民館内
TEL	0233-55-3051
FAX	0233-55-3053
Eメール	sakegawa-kouminkan@diary.ocn.ne.jp
ホームページ	http://www7b.biglobe.ne.jp/~sakegawa_yu_yu_c_love/index.html

行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブ

【 スポーツクラブ21長沢 】 ＜兵庫県淡路市＞

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、地域のコミュニティと密接に関わっている行政や教育機関、学校の部活動とよいコミュニケーションを築くことが重要です。

そこで今回は、地域の行政・教育機関・学校部活動と連携しているクラブを紹介します。

👉 ここがポイント!

- ① 地域の現状を考え、「転倒防止」に的を絞ったイベントを開催!
- ② スポーツ大会等で地域の専門学校と関係を築く!
- ③ クラブは人材と設備の提供を受け、学生は貴重な体験が可能に!



1 クラブ概要

近年の少子高齢化や情報化などの社会の急速な変化にともない、コミュニティの崩壊、地域・家庭の教育力の低下、子供たちの規範意識の欠如などがうたわれ始めて久しくなっています。そのような中、スポーツを通じて、親子のふれあいや地域の人々の交流を促進し、健康で活気ある地域づくりを行うとともに、子供たちにルールを守る精神やマナーを大切にする気持ちなどを培うことの必要性が生まれてきました。

そこで、日常生活の中で自発的にスポーツを楽しみ、各自の健康・体力を維持・増進するとともに、会員相互の親睦を図り、地域社会の連帯と明るく豊かな生活の実現を目的として、「自主自立」を理念に、平成14年5月、「スポーツクラブ21長沢」を設立しました。

発足時には約300名の会員数がおり、スポーツ活動部・文化活動部あわせて7種目が活発に活動しておりました。しかし、平成21年に津名町（現在は淡路市）立生穂第二小学校が廃校になった結果と、この地域が限界集落になりつつある中で会員数も55名に減少しているのが現実です。

現在は、4種目（ウォーキング、グラウンド・ゴルフ、軽音楽、和太鼓）が活動を行っております。

2 専門学校との連携までの経緯

当地域が限界集落になりつつある中で、「地域の住民が自主・自立し、生き生きと生活する」ために何が必要かと考えた結果、「転倒防止」が効果的だろうと思い、市内にある「関西総合リハビリテーション専門学校」の先生および学生に協力をお願いしました。

関西リハビリテーション専門学校は、市のスポーツ大会に積極的に参加し、地域との交流を図っている学校でした。そして、そこで学校関係者とクラブ関係者が知り合いとなり、大会後の反省会でより親密になっていました。そのように、すでに学校関係者と関係性を築けていたこともあり、連携活動の話はとんとん拍子で進みました。

この経験から、どの機関や団体も、「身近な地域密着」が必要だと感じました。

3 連携内容

「こけたらいたい※」をキャッチフレーズに身体測定を行い、会員個々の体のバランスや柔軟性・瞬発力等を測定し、自分を客観的に観察することで、転倒防止に役立ててほしいという考えで行いました。

計画を立ていざ実行する時、多くの会員に参加していただく為に、本クラブの総会と兼ねて行うという工夫をしました。身体測定当日には、専門学校から理学療法士を2名、学生を10名程度派遣していただいたほか、血圧計や体力測定用器具一式も貸し出していただき、準備からお手伝いいただきました。

身体測定を数値化した結果、皆が自分の弱点を把握し、結果はその後のクラブ活動に活かされています。また、この取組を通して、関西総合リハビリテーション専門学校の学生さんは「実体験」という貴重な経験をすることができ、当クラブの会員は学生さんとの触れ合いの中で自分を知ると言うお互いによい影響がありました。

※「こけたらいたい」の「こけたら」は、転倒という意味の関西弁です。



4 今後の課題・展望

クラブでは、当初の「5年計画」の活動を終えた今、関西総合リハビリテーション専門学校と連携した「こけたらいたい運動は」実施していません。「こけたらいたい運動」をとおして目指した、「体を元気に・心を豊かに」は、転倒を防ぐこと⇒ケガ防止⇒寝たきり防止⇒「体・元氣、心・豊、笑顔」につながり、地域全体で取り組む活動として、概ね達成できたと感じています。

しかし、平成28年度は、当初の「5年計画」の満了と、緩やかながらも参加者が減少してきたことから実施できず、今後に向けての明るい将来像が見えていないのが現状です。

少子高齢化による会員数の減少や、運営の困難さは、本クラブのみが抱える課題ではありません。淡路市におけるスポーツクラブ21の実状は、その多くのクラブにおいて、活動そのものがきわめて困難な状況に陥っています。しかしながら、今後も設立当初の理念「自主自立」の精神を堅持しつつ、課題を少しずつ克服できるよう模索していきたいと思っています。

（ スポーツクラブ21長沢 会長 坂本 茂樹 ）
淡路市教育委員会事務局 スポーツ推進室 足立 敬介

クラブプロフィール

設立年月日：平成14年5月13日

所在地：兵庫県淡路市長澤地区

運営：会員数：55名（平成28年7月現在）

予算規模：477千円（平成28年度）

■ 連絡先

郵便番号	656-2221
住所	兵庫県淡路市長澤628-1